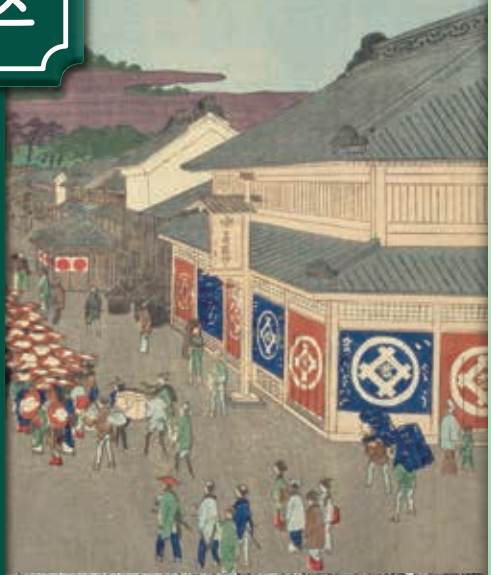




上野地区

まちづくりビジョン



資料編



令和2年3月
台東区

目 次

1. 上野の歴史	2
2. データにみる上野の現況	6
3. 分野別にみる上野の現況	16
(1) 文化	
(2) 観光	
(3) みどり・環境	
(4) 拠点	
(5) 交通・基盤	
(6) 生活・暮らし	
(7) 防災	
4. 調査結果概要	25
(1) 交通調査結果概要	
(2) ブランディング調査結果概要	
(3) ヒアリング調査結果概要	
5. パブリックコメント実施結果	37
6. 検討経緯	43
7. 検討体制	49
(1) 名簿	
(2) 設置要綱	
【参考】掲載写真解説	56

1

上野の歴史

◆これまでの上野のまちの変遷◆

江戸

- 寛永 2 (1625) 年：寛永寺建立
- 明暦 3 (1657) 年：明暦の大火



【明暦 3 年頃 (1657) 年】
出典：「江戸東京市街地図集成」より本郷・上野 (台東区立中央図書館蔵)



出典：上野仁王門絵図 (歌川豊春) (国立国会図書館蔵)



【安政 6 年 (1859) 年】
出典：「江戸東京市街地図集成」より本郷・上野 (台東区立中央図書館蔵)

- 安政 2 (1855) 年：安政の大地震
- 慶応 4 (1868) 年：上野戦争で寛永寺、上野・下谷などが焼失

明治

- 明治元 (1868) 年：江戸から東京へ
- 明治 3 (1870) 年：現在から 150 年前
- 明治 6 (1873) 年：寛永寺が公園に指定される (上野公園開園)



・明治の庶民の花見 (上野観光連盟 HP より)

- 明治 10 (1877) 年：第 1 回内国勲業博覧会 (~ 23 年 第 3 回まで)



・第 1 回内国勲業博覧会 (上野観光連盟 HP より)

- 明治 11 (1878) 年：東京府が 15 区 6 郡制となり、下谷区、浅草区が誕生
- 明治 15 (1882) 年：博物館旧本館開館、動物園 (博物館付属施設)



・明治初期の動物園 (上野観光連盟 HP より)



【明治 9 年 (1876) 年】
出典：「江戸東京市街地図集成」より本郷・上野 (台東区立中央図書館蔵)

1

上野の歴史

明治

- 明治 16 (1883) 年：上野～高崎間に鉄道が開通し、日本鉄道上野駅が開業



・開業当時の上野駅 (上野観光連盟 HP より)

- 明治 22 (1889) 年：上野公園に東京美術学校 (現東京藝術大学) が設立される
- 明治 23 (1890) 年：現在地に東京音楽学校 (現東京藝術大学) が設立される

- 明治 28 (1895) 年：現在から 125 年前

- 明治 39 (1906) 年：上野公園に帝国図書館が設置される



・帝国図書館誕生 (上野観光連盟 HP より)



【明治 19-21 年 (1886 ~ 1888) 年】

出典：「江戸東京市街地図集成」より本郷・上野 (台東区立中央図書館蔵)

大正

- 大正 2 (1913) 年：明治記念博覧会開催



・明治記念博覧会 (上野観光連盟 HP より)



・上野広小路 (左) と大震災で焼失する直前の上野松坂屋 (右)
(上野観光連盟 HP より)

- 大正 9 (1920) 年：現在から 100 年前

- 大正 12 (1923) 年：関東大震災



・震災時の上野一丁目付近 (上野観光連盟 HP より)



・上野松坂屋 (出典：上野観光連盟 HP)

- 大正 14 (1925) 年：東京市街線開通



【大正 8-11 年 (1921 ~ 1924) 年】

出典：「江戸東京市街地図集成」より本郷・上野 (台東区立中央図書館蔵)

昭和

- 昭和元（1926）年：上野公園に東京府美術館（現東京都美術館）が開館
- 昭和2（1927）年：上野～浅草間に日本初の地下鉄開通(東京地下鉄道株式会社)



・地下鉄の開業（上野観光連盟 HP より）

- 昭和4（1929）年：上野駅松坂屋現本館開店



・上野松坂屋の落成
(上野観光連盟 HP より)



・東京科学博物館（昭和6年）
(上野観光連盟 HP より)



・落成当時の二代目上野駅（出典：上野駅史）

- 昭和7（1932）年：上野駅2代目（現）駅舎落成
- 昭和8（1933）年：京成上野公園駅開業



・京成線の建設風景
(上野観光連盟 HP より)



・開業当時の京成電鉄上野公園駅（提供：京成電鉄株式会社）



【昭和5-7年（1930～1932）年】
出典：「江戸東京市街地図集成」より本郷・上野(台東区立中央図書館蔵)

● 昭和20（1945）年：現在から75年前

- 昭和20（1945）年：東京大空襲、終戦
- 昭和21（1946）年頃：上野にアメヤ横丁ができる



・上野アメ横 昭和39（1964）年
台東区教育委員会所蔵
須賀一コレクション

● 昭和22（1947）年：現在から73年前

- 昭和22（1947）年：台東区誕生
- 昭和28（1953）年：水上音楽堂開設



・上野アメ横 昭和39（1964）年
台東区教育委員会所蔵
須賀一コレクション

- 昭和34（1959）年：西洋美術館開館
- 昭和36（1961）年：地下鉄日比谷線（南千住～仲御徒町）開通・東京文化会館完成
- 昭和39（1964）年：御徒町にて時計・宝飾業者の市開催
- 昭和43（1968）年：上野駅前大歩道橋完成



・新幹線の建設
上野駅 昭和56（1981）年
台東区立中央図書館所蔵 高相嘉男コレクション

● 昭和45（1970）年：現在から50年前

- 昭和46（1971）年：上野駅内大連絡橋完成
- 昭和47（1972）年：京成百貨店開店
- 昭和48（1973）年：京成上野駅改修
- 昭和53（1978）年：新上野駅建設構想発表
- 昭和60（1985）年：東北・上越新幹線
上野駅開業



【昭和26年（1951）年】
出典：「江戸東京市街地図集成」より本郷・上野(台東区立中央図書館蔵)

1

上野の歴史

平成

- 平成元（1989）年：ジュエリーブリッジ一部開通
- 平成3（1991）年：東北新幹線東京～上野間開業
御徒町駅周辺地区 地区計画決定
- 平成7（1995）年：現在から25年前
- 平成12（2000）年：パンダ橋（上野駅東西連絡路）開通
都営大江戸線（上野御徒町駅）開業
- 平成14（2002）年：上野駅アトレ開業
- 平成18（2006）年：都市計画マスタープランの策定
- 平成21（2009）年：区立上野広小路地下駐車場供用開始
東上野二丁目特定街区都市計画決定
- 平成22（2010）年：御徒町駅南口西地区土地区画整理事業完了
- 平成24（2012）年：御徒町南口駅前広場供用開始
- 平成26（2014）年：御徒町駅北口駅前広場供用開始
御徒町駅北口西地区土地区画整理事業完了
- 平成27（2015）年：上野東京ライン開業
- 平成28（2016）年：国立西洋美術館がユネスコ世界文化遺産に指定
- 平成29（2017）年：松坂屋上野店南館（シタマチ・フロント）グランドオープン
- 平成31（2019）年：新たな都市計画マスタープランの策定

令和

- 令和2（2020）年：JR 上野駅新公園口駅舎供用開始



・ジュエリーブリッジ



・パンダ橋



・御徒町南口駅前広場（供用開始時）



・アトレ上野



・上野東京ライン



・シタマチフロント

2

データにみる上野の現況

◆地域の現況◆

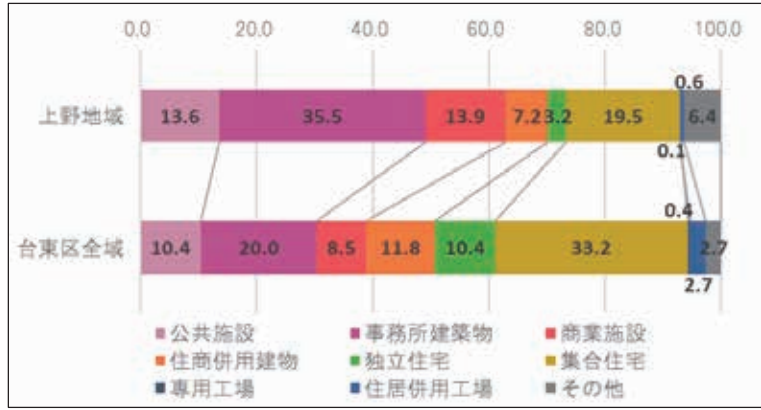
※本章のデータ区域は、台東区都市計画マスタープラン 第5章「地域別まちづくり方針」における「上野地域」を示す

◆建物利用状況（平成 28（2016）年）◆

建物用途

- 公共施設
- 事務所建築物
- 商業施設
- 住商併用建物
- 独立住宅
- 集合住宅
- 専用工場
- 住居併用工場
- その他

用途別床面積の割合



出典：平成 28（2016）年度土地利用現況調査（東京都）より作成

2

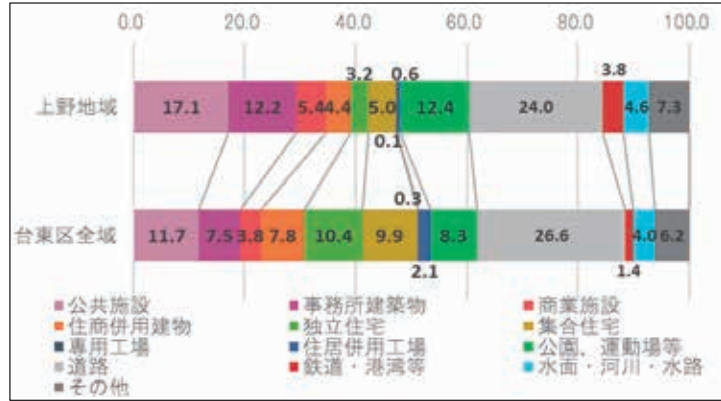
データにみる上野の現況

◆土地利用状況（平成 28（2016）年）◆

土地利用

- 公共施設
- 事務所建築物
- 商業施設
- 住商併用建物
- 独立住宅
- 集合住宅
- 専用工場
- 住居併用工場
- 公園、運動場等
- 道路
- 鉄道・港湾等
- 水面・河川・水路
- その他

用途別土地面積の割合



出典：平成 28（2016）年度土地利用現況調査（東京都）より作成

◆建物階数（平成 28（2016）年）◆

建物地上階数

- 低層（1～3階）
- 中層（4～7階）
- 高層（8～15階）
- 超高層（16階以上）



出典：平成 28（2016）年度土地利用現況調査（東京都）より作成



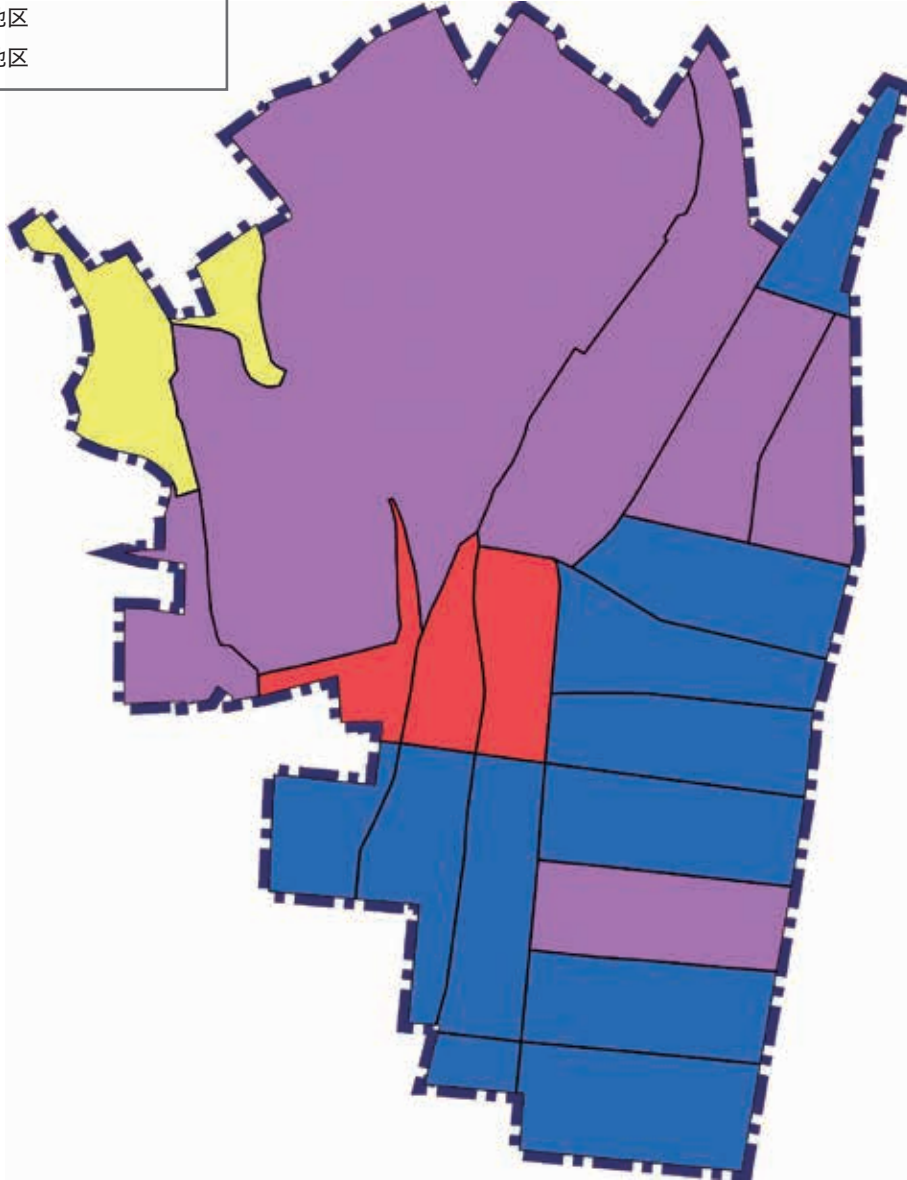
2

データにみる上野の現況

◆地区類型（平成 28（2016）年）◆

建物地上階数

- 商業地区
- 専用・併用住宅混合地区
- 専用住宅地区
- 業務地区
- 混在地区

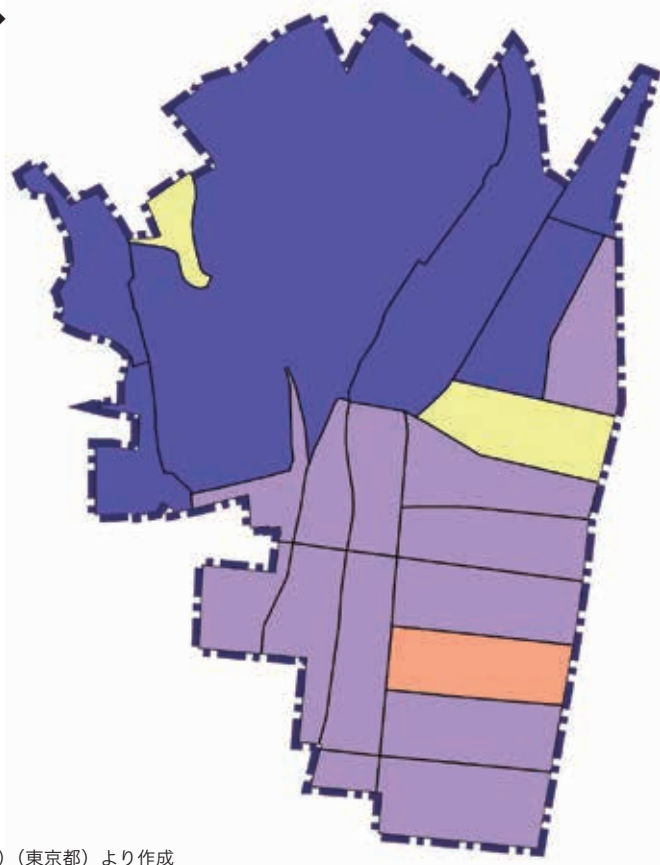
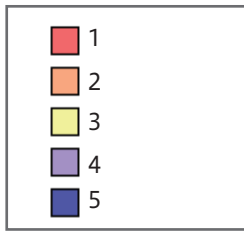


0 500 1000 m

出典：平成 30（2018）年度台東区都市づくりのための基礎資料（台東区）より作成

◆火災危険度（平成 28（2016）年）◆

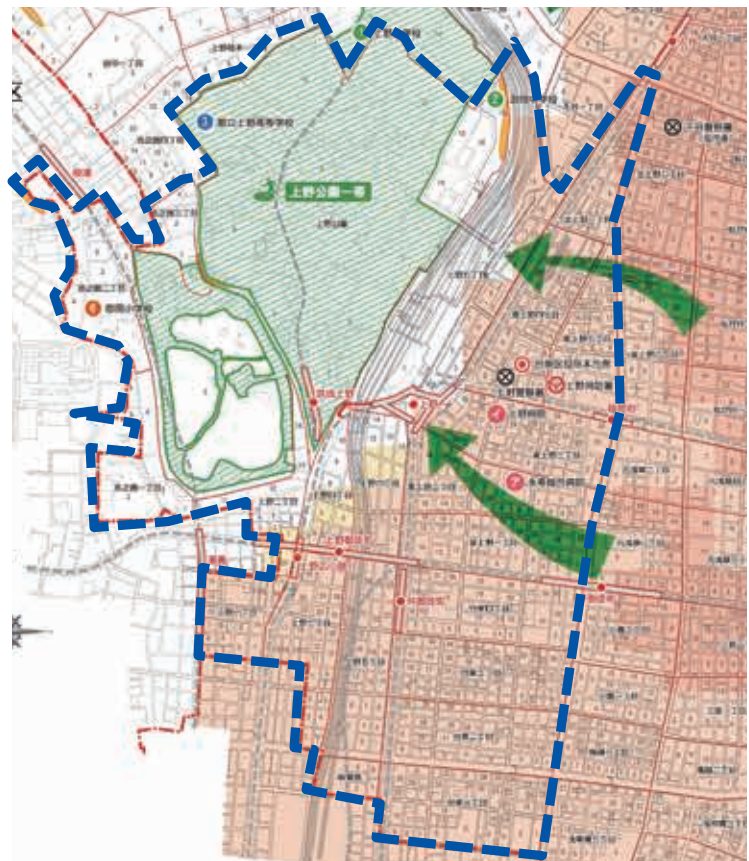
火災危険度分類



出典：地震に関する地域危険度測定調査（第 8 回）（東京都）より作成

◆荒川の氾濫による水害予測（平成 29（2017）年）◆

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

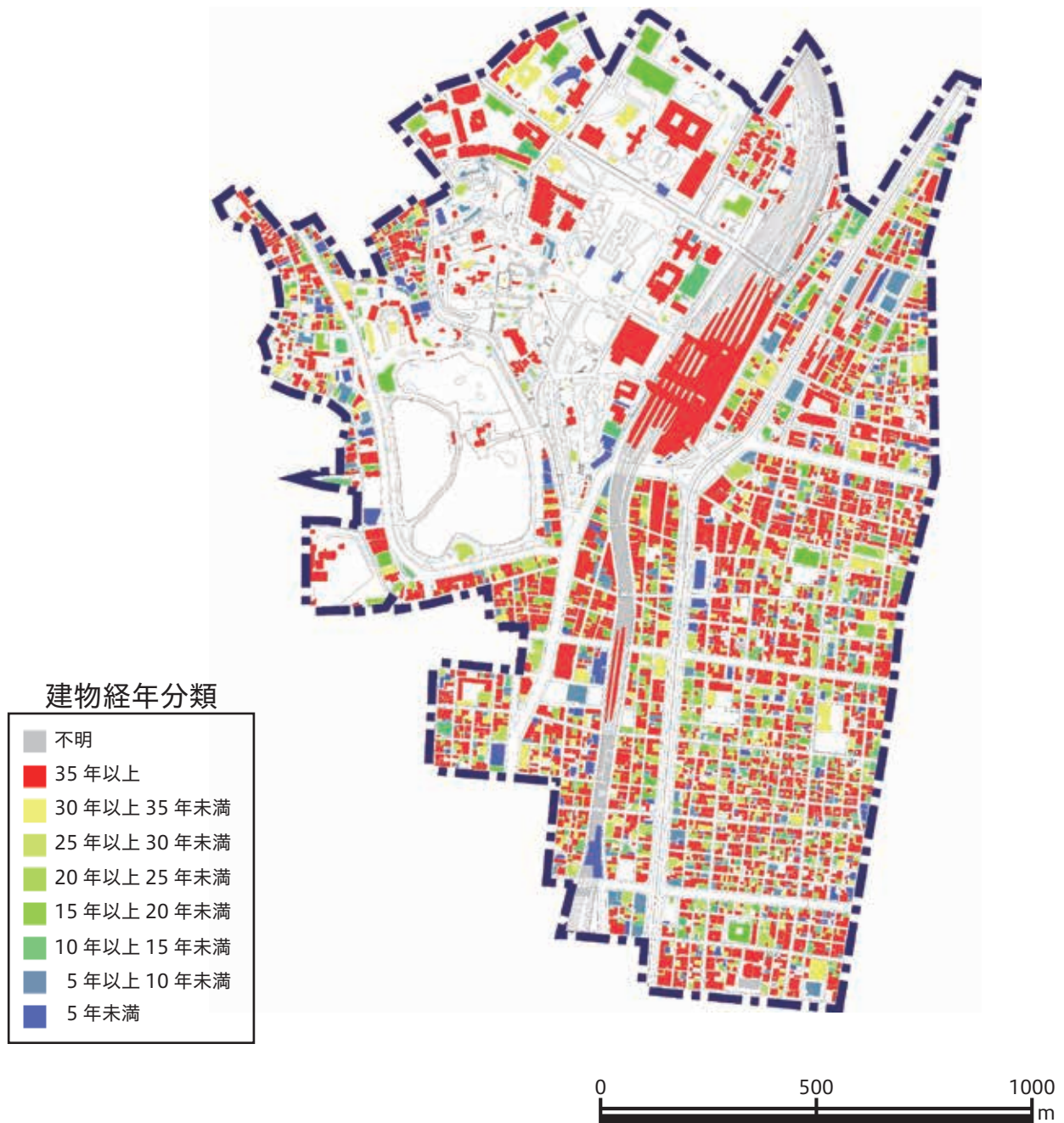


出典：平成 30（2018）年度台東区都市づくりのための基礎資料（台東区）より作成

2

データにみる上野の現況

◆建物築年数（平成 28（2016）年）◆



出典：平成 30（2018）年度台東区都市づくりのための基礎資料（台東区）より作成

◆震災時の上野駅周辺の滞留者数の推計（平成 27（2015）年）◆

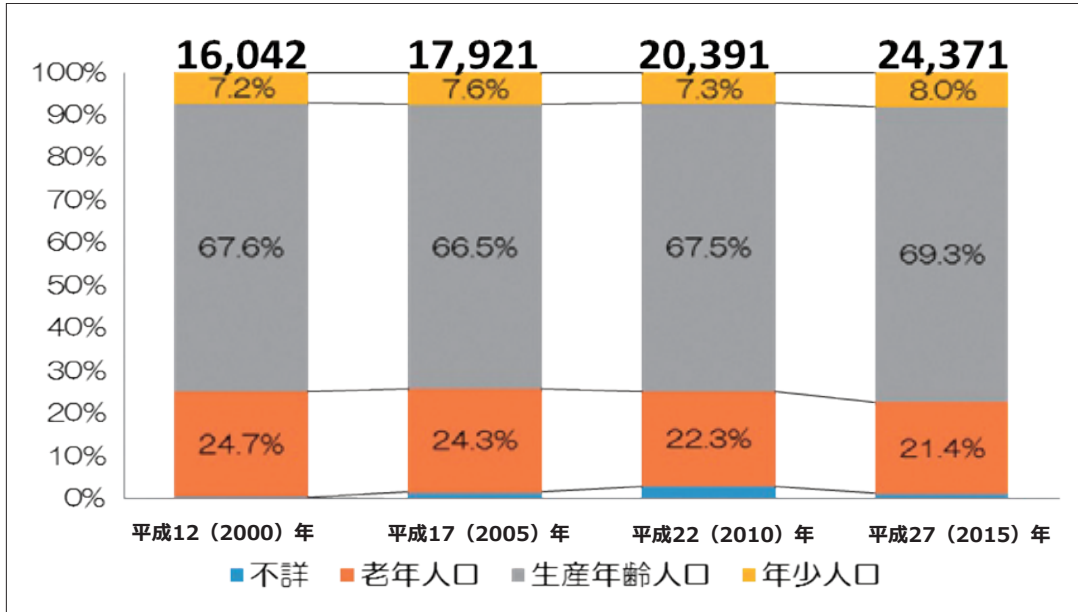
滞留者は約 10.7 万人

うち、旅行者、買い物客等の屋外滞留者は約 2.2 万人と推計

注）上野駅を起点とした半径 4km² の範囲の人を対象

出典：上野駅周辺エリア防災計画、平成 27（2015）年 9 月、上野駅周辺滞留者対策推進協議会より

◆人口の推移（平成12（2000）～平成27（2015）年）◆

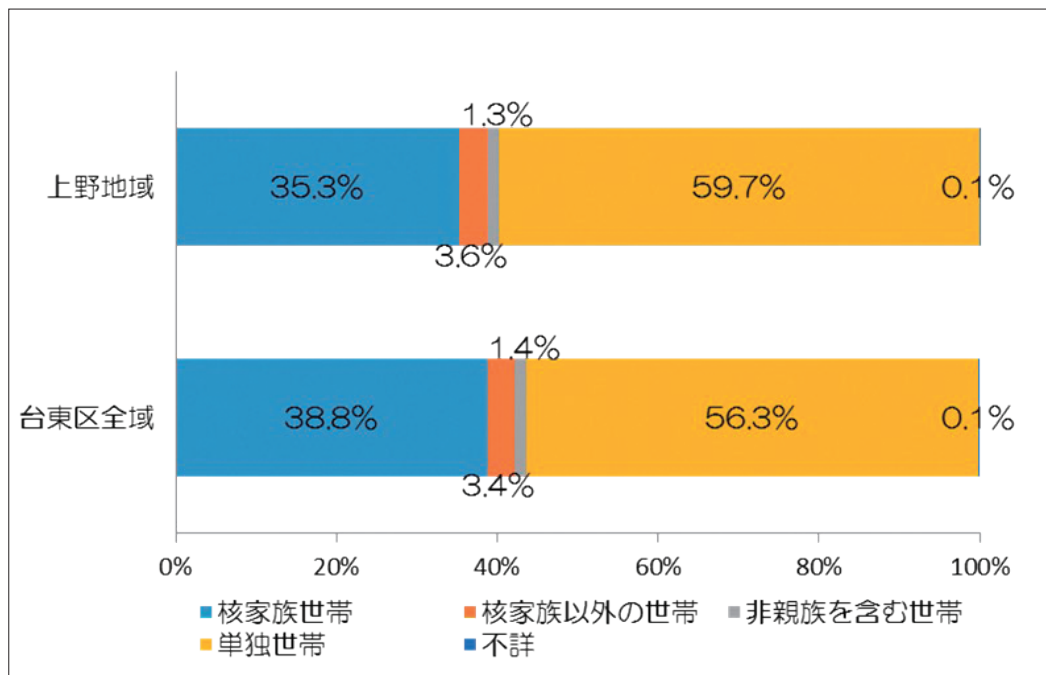


◆人口増減率（平成12（2000）～平成27（2015）年）◆

	平成17（2005）年/ 平成12（2000）年	平成22（2010）年/ 平成17（2005）年	平成27（2015）年/ 平成22（2010）年
上野地域	11.7%	13.8%	19.5%
台東区全域	5.7%	6.5%	12.3%

出典：平成12（2000）年・平成17（2005）年・平成22（2010）年・平成27（2015）年国勢調査（総務省）より作成

◆世帯類型別構成（平成27（2015）年）◆

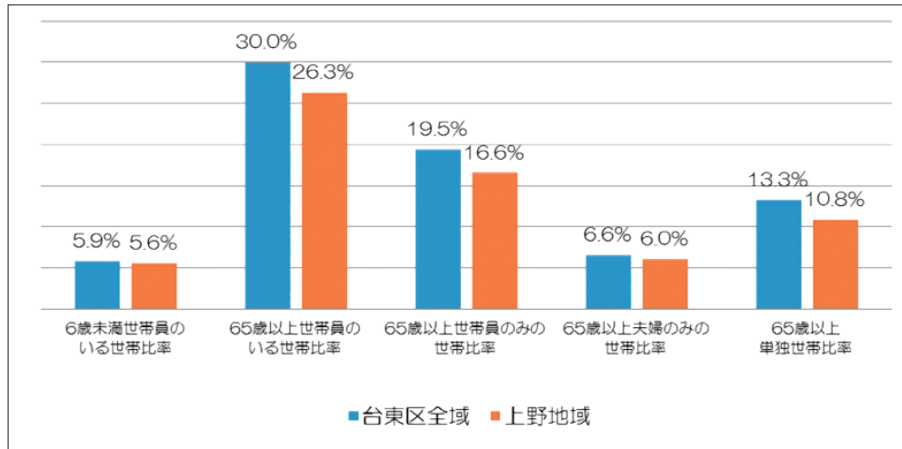


出典：平成27（2015）年国勢調査（総務省）より作成

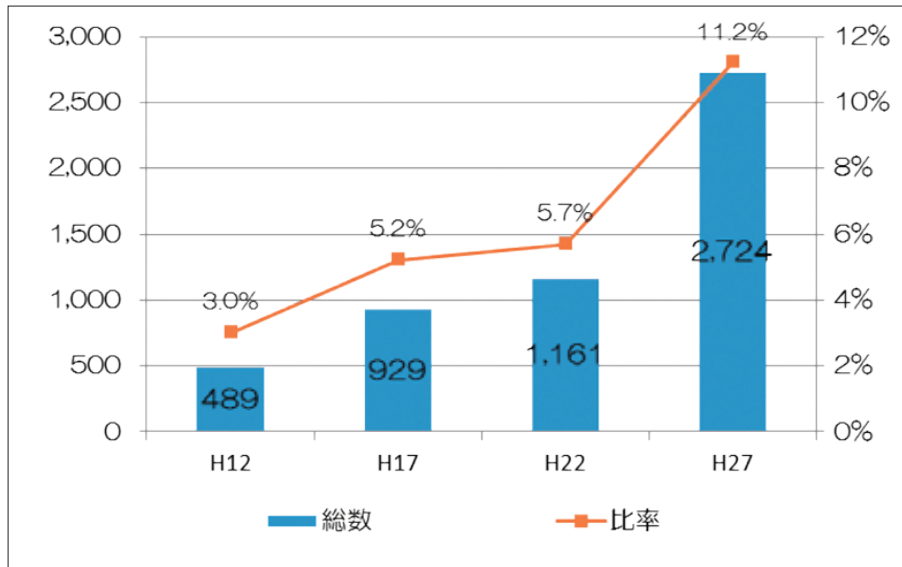
2

データにみる上野の現況

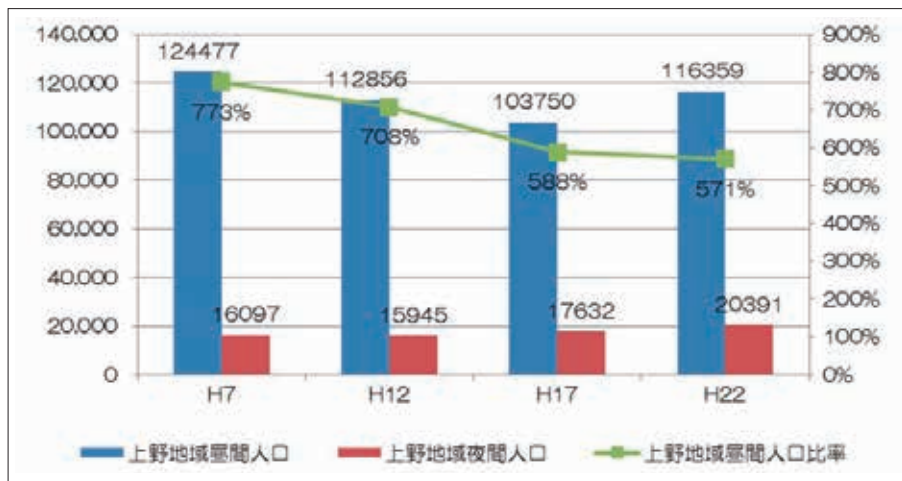
◆子育て世帯・高齢者世帯比率（平成 27（2015）年）◆



◆外国人人口（平成 12（2000）～平成 27（2015）年）◆

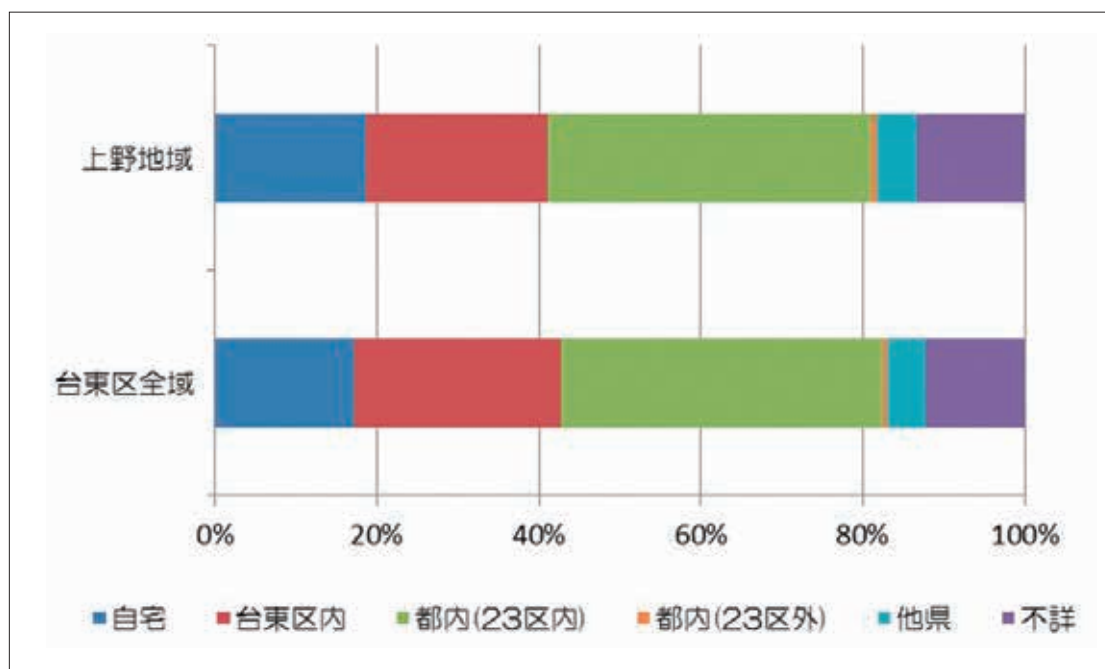


◆昼間人口・昼間人口比率（平成 12（2000）～平成 22（2010）年）◆

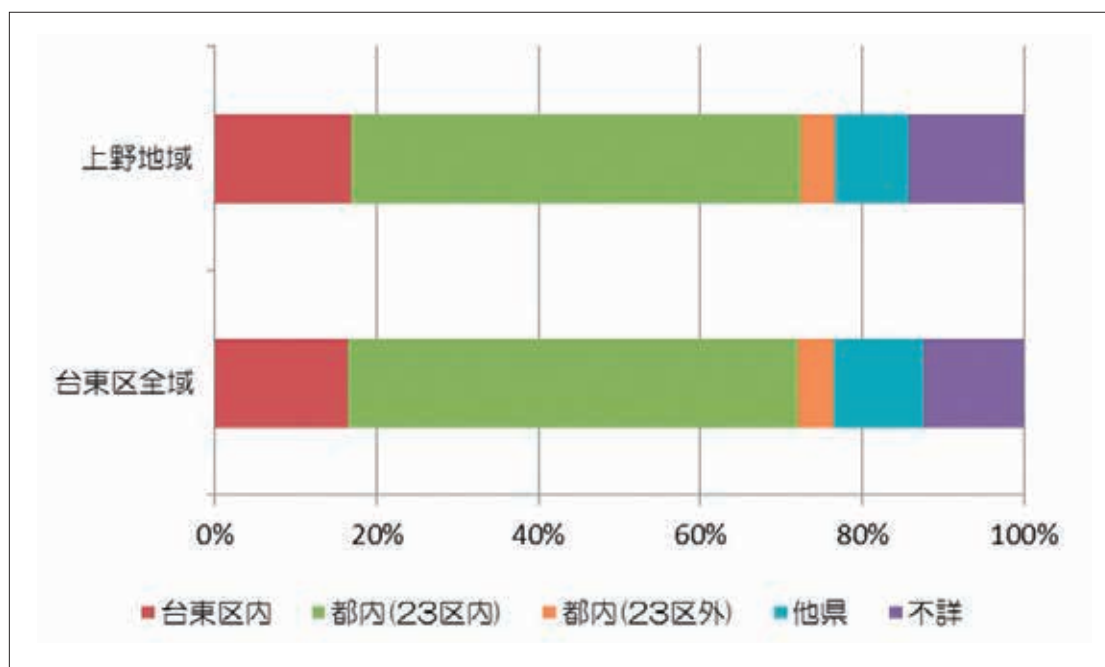


出典：平成 7（1995）年・平成 12（2000）年・平成 17（2005）年・平成 22（2010）年・平成 27（2015）年国勢調査（総務省）より作成

◆通勤人口（平成 27（2015）年）◆



◆通学人口（平成 27（2015）年）◆

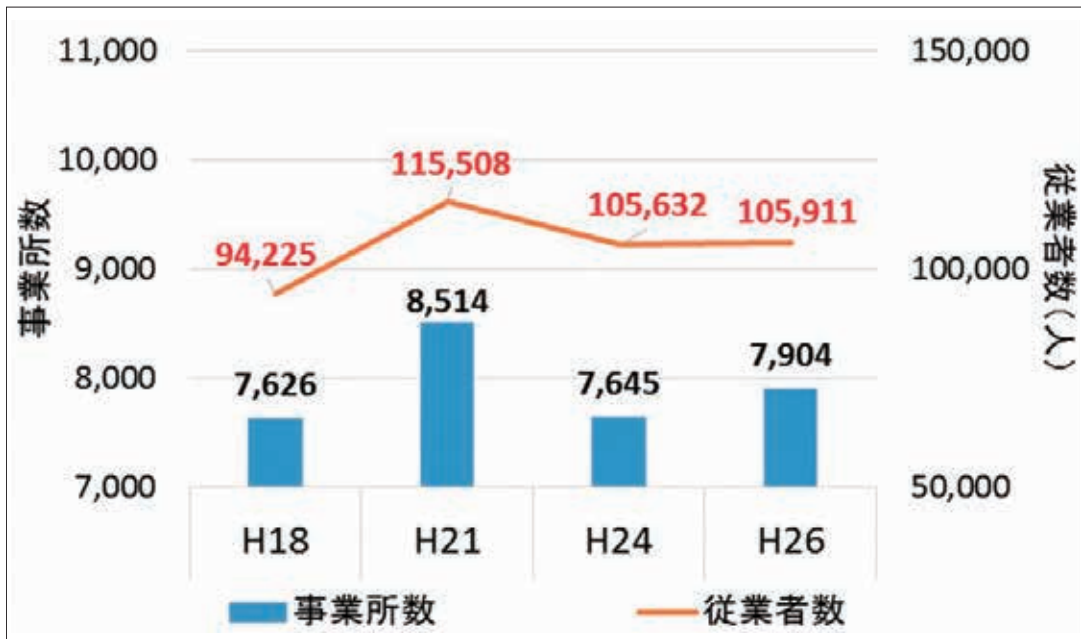


2

データにみる上野の現況

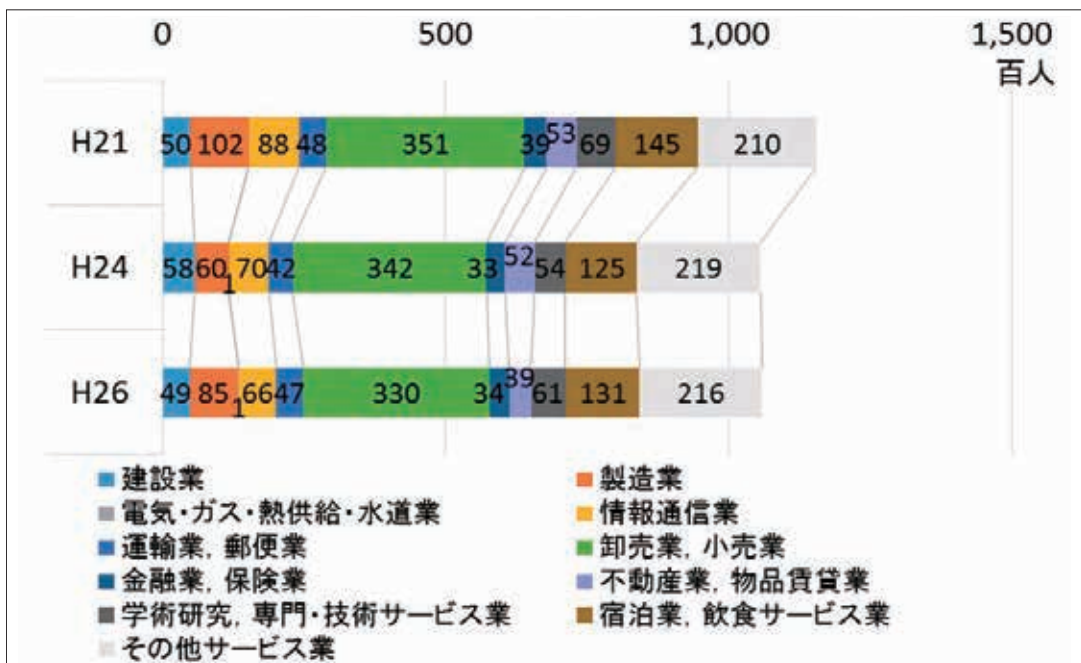
◆事務所数及び従業者数

(平成 18 (2006)、平成 21 (2009)、平成 24 (2012)、平成 26 (2014) 年) ◆



◆産業別従業者数

(平成 21 (2009)、平成 24 (2012)、平成 26 (2014) 年) ◆



出典：平成 18 (2006) 年事務所・企業統計調査、平成 21 (2009) 年・平成 26 (2014) 年経済センサス-基礎調査
平成 24 (2012) 年経済センサス活動調査 (総務省) より作成

3

分野別にみる上野の現況

(1) 文化（上野の山）

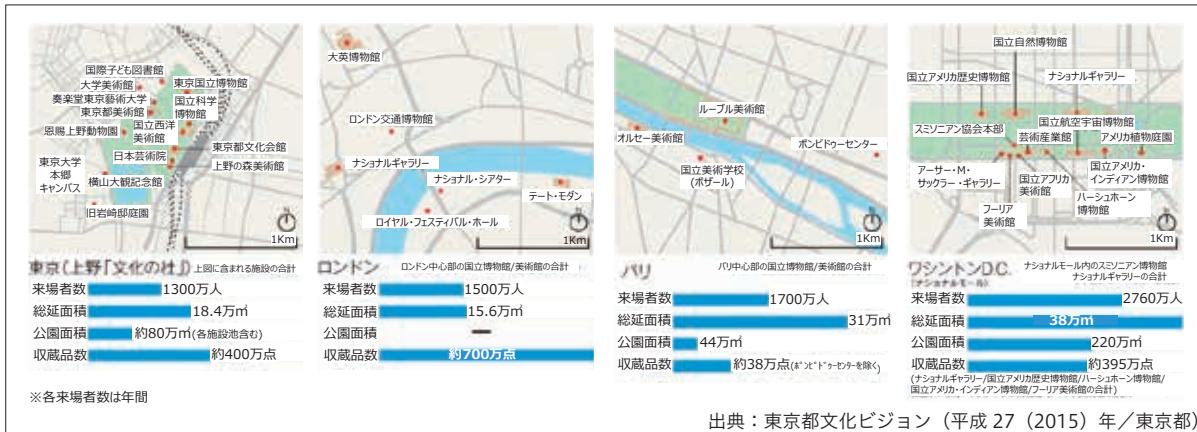
【まちの特徴（強み）】

- ① 徒歩で回遊できる範囲内に、海外の主要都市と比較しても遜色のない、世界文化遺産を含む多様かつ高度な文化・芸術関連施設や寛永寺などの名所・旧跡が集積している

【まちの課題（弱み）】

- ① 文化・芸術施設は上野恩賜公園内に集積しており、地区全体としては偏りがある
- ② 上野恩賜公園内においては法令等により、これ以上の施設の大規模な増床が見込めない

■ 世界主要都市の文化・芸術施設の集積状況



■ 国立西洋美術館の世界文化遺産登録



平成28(2016)年7月に国立西洋美術館が、世界文化遺産に登録された

世界文化遺産「国立西洋美術館」
© 国立西洋美術館

■ 上野地区の文化施設の配置



出典：たいとう文化発信プログラム（平成29（2017）年/台東区）より作成

■ 上野恩賜公園の都市計画の指定状況



出典：たいとうマップデータ（台東区）より作成

3

分野別にみる上野の現況

(1) 文化 (まち)

【まちの特徴 (強み)】

- ① 「アメ横」「ジュエリータウン」をはじめとした個性豊かで活気ある商業や賑わい、景観がある
- ② 江戸から続く大衆文化が色濃く残る
- ③ 周辺地区には多様で特色のある資源がある

【まちの課題 (弱み)】

- ① まちの良さを伝える情報発信、来街者のためのまち案内などの機能が不足している
- ② 豊富な地域資源を結びつける回遊性が不足している

■ 上野地区及び周辺の主な地域資源



(2) 観光

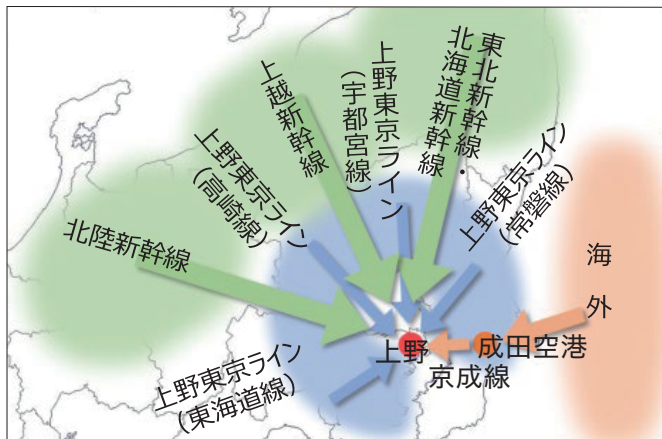
【まちの特徴（強み）】

- ① 成田空港からの直通列車、新幹線・特急列車の乗り入れにより、国内外からのアクセス性が高い
- ② 年間約2,700万人の観光客が国内外から訪れ、人気・知名度の高い観光地としての側面もある

【まちの課題（弱み）】

- ① まちの物理的な構造（道路、線路、高低差等）により、来街者の視認性・回遊性の向上に改善の余地がある
- ② 東京都の客室稼働率は高い水準（8割前後）で推移しており、多くの観光客が訪れる上野地区でも、宿泊機能の強化が求められる

■ 上野への広域交通アクセス



国内外からのアクセス性の高さ

■ 上野地区の視認性・回遊性等の状況



平成 29(2017) 年撮影

【上野恩賜公園の崖線】

- ・観光客の多い上野恩賜公園との間には、約20mほどの段差が生じている

■ 上野地区の観光入込客数の推計

	平成 28 (2016) 年	平成 26 (2014) 年
観光客数	2,726 万人	2,592 万人
宿泊観光客	268 万人	166 万人

出典：平成 28 年度台東区観光・マーケティング調査
(平成 29 (2017) 年/台東区) より作成

■ 東京都の客室稼働率の推移

平成 24 (2012) 年度	平成 25 (2013) 年度	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度
76.4%	81.1%	78.8%	82.6%	78.8%

出典：宿泊旅行統計調査（平成 29 (2017) 年 8 月分/観光庁）より作成



【上野駅不忍口】

- ・駅出口付近に鉄道の高架があり、視認性が悪い

3

分野別にみる上野の現況

(3) みどり・環境

【まちの特徴（強み）】

- ① 上野恩賜公園は貴重な緑の環境が形成されており、都内における有数の緑の拠点である（総面積約 54 万 m²）
- ② ビジネス・生活の場として、立地条件をいかした国際的なニーズが期待できる

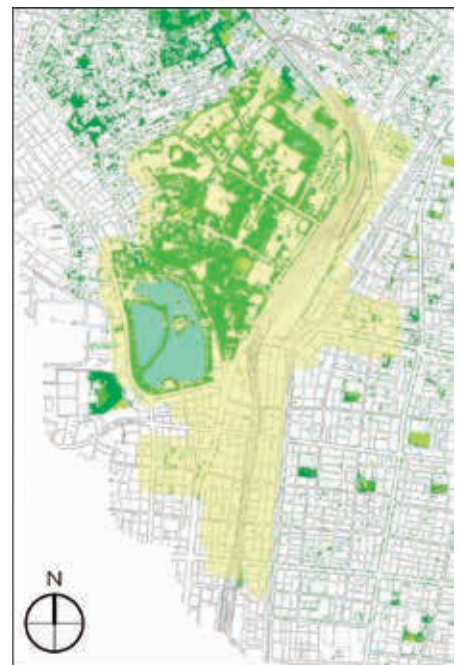
【まちの課題（弱み）】

- ① 上野恩賜公園以外では寺社・公園内や街路樹等にみどりが点在しているが、面的な広がりはない

■ 東京都区部の主な緑の拠点

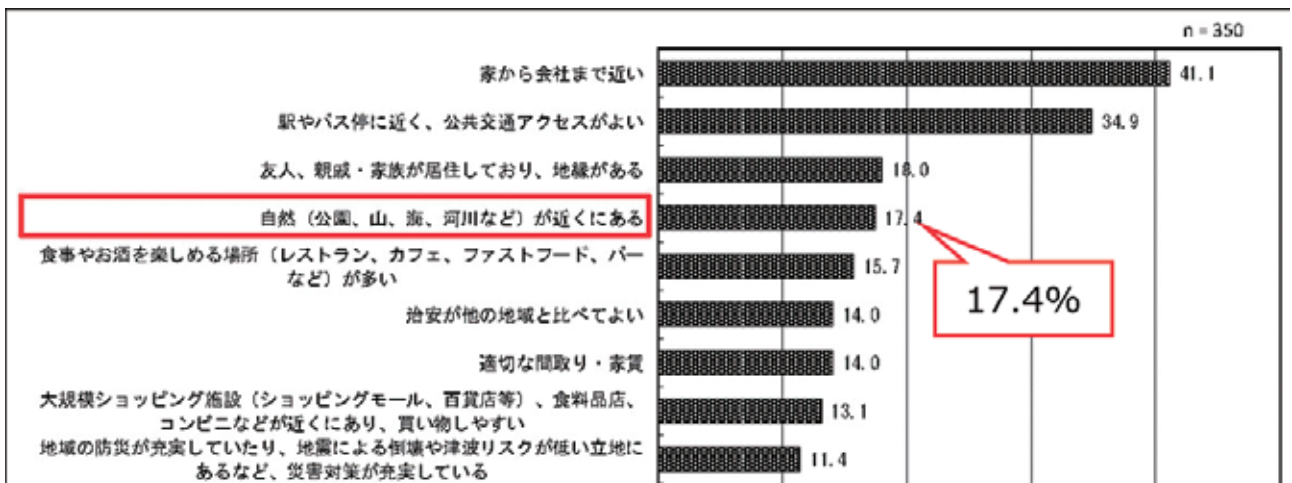


■ 上野地区の緑被地分布図



出典：台東区花とみどりの基本計画（平成 29（2017）年／台東区）

■ 外国人の生活環境に係る需要



出典：大都市における国際競争力強化に向けた外国企業誘致のための外国人生活環境に係る検討調査報告書（平成 29（2017）年／国土交通省）

(4) 拠点（機能集積）

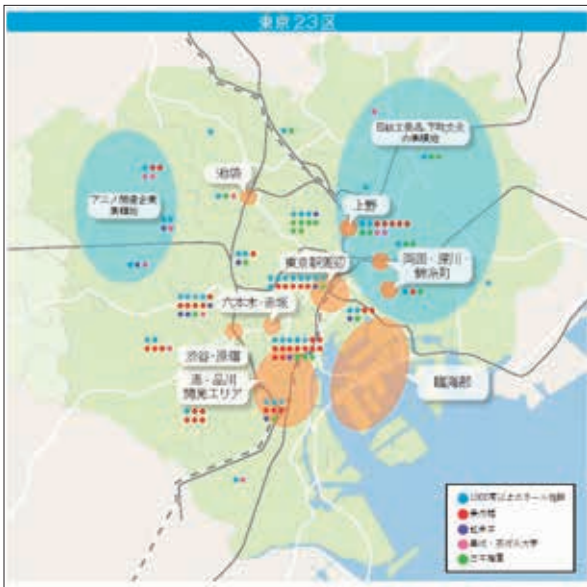
【まちの特徴（強み）】

- ① 都内主要拠点の中でも文化施設の集積度が高く、「文化の拠点」として東京の魅力を支え高めている
- ② 上野駅東側（東上野四・五丁目地区）には行政施設が集中している

【まちの課題（弱み）】

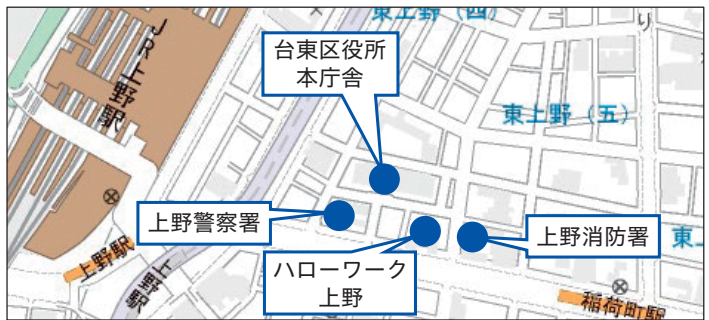
- ① まち全体に文化・観光をいかした機能の広がりが見られない
- ② 建物の高度利用が十分進んでおらず、商業・業務床面積の増加率が低く、都内他拠点と比べ集積度が低い

■ 都内主要拠点における文化施設の集積状況

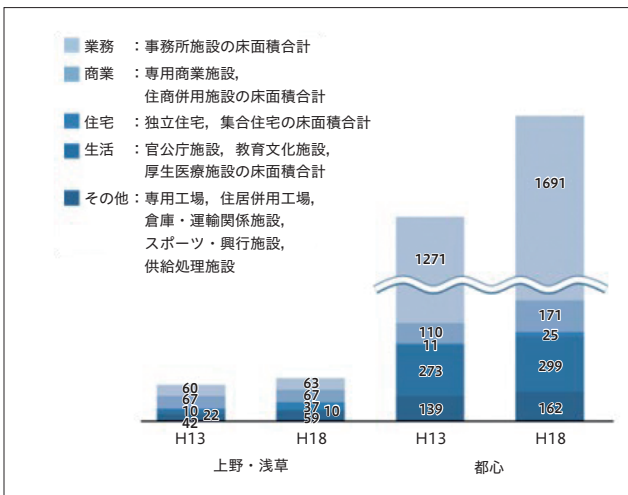


出典：東京都／東京都文化ビジョン（平成27（2015）年）

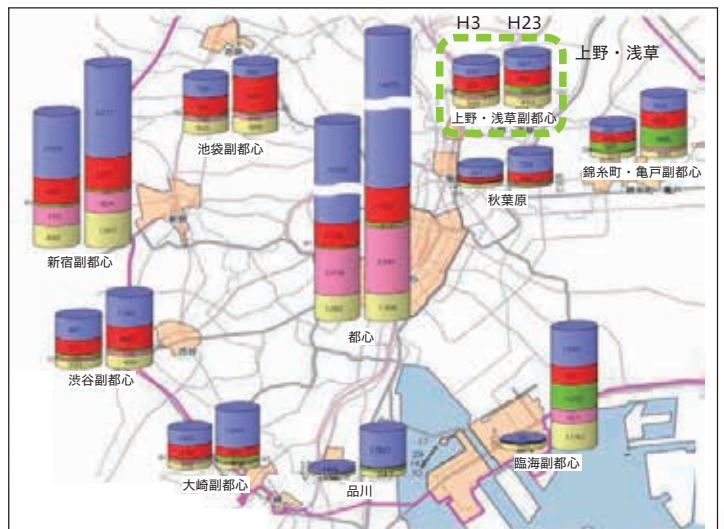
■ 東上野四・五丁目地区における公共施設の配置



■ 都内主要拠点における機能の集積状況



出典：東京都「土地利用現況調査」（平成28（2016）年）



出典：東京都市計画審議会第1回都市づくり調査特別委員会資料（平成27（2015）年）

3

分野別にみる上野の現況

(5) 交通・基盤 (駅)

【まちの特徴 (強み)】

- ① 上野駅は、東京の鉄道の中でも歴史ある拠点駅である
- ② 新幹線の停車駅であり、一日約 62 万人の乗降客数のある交通結節拠点である

【まちの課題 (弱み)】

- ① 駅正面は荷捌きスペースやバスの乗降スペース等として利用されており、構造物が多く、拠点駅に相応しい顔と広場空間が不足している
- ② 駅構成や乗換動線が複雑で見通しがきかない

■ 歴史のある上野駅



・落成当時の二代目上野



・銀座線上野駅の鉄鋼框 (かまち) 構造
日本土木学会の認定する土木遺産に選定されている (東京メトロ HP より)

■ 上野駅前の状況

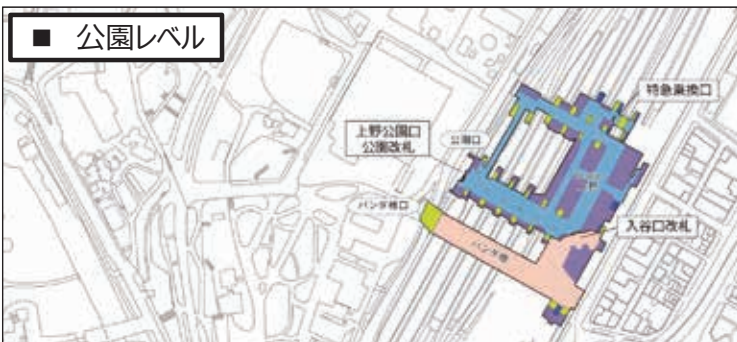


・JR 上野駅正面口
駅業務施設・商業施設の荷捌き等が行われている



・京成上野駅出口
歩道が近接しており、バスの乗降が行われるなど、滞留スペースも十分ではない

■ 乗り換え動線の状況



■ 上野駅の乗降客数

路線名	乗降客数 (人/日) 【平成 27(2015) 年度】
JR 東日本	363,176
東京メトロ	207,240
京成電鉄	44,814
合計	615,230

(各社 HP より)



◀ JR-地下鉄間の乗り換への動線



京成上野駅との接続通路 ▶

(5) 交通・基盤 (街路)

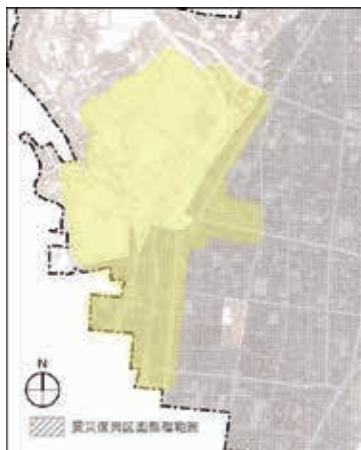
【まちの特徴 (強み)】

① 関東大震災後の震災復興区画整理により、主要な幹線道路・区画が概ね整備されている

【まちの課題 (弱み)】

- ① 一部の歩道が混雑している一方、東西連絡通路 (パンダ橋) はあまり利用されておらず、適正な歩行者空間の利用がなされていない
- ② 駐車場やバス・タクシーの乗降スペース、荷捌きスペースなどの適正な配置がなされていない

■ 震災復興区画整理範囲図



出典：台東区景観計画

■ 周辺の街路環境



出典：たいとうマップ

■ 歩行者空間の状況

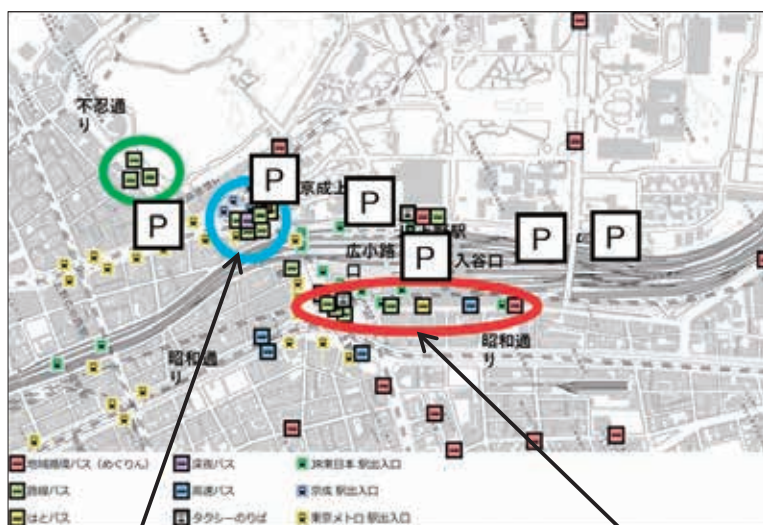


パンダ橋

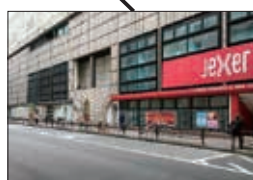


上野駅付近の歩道

■ 上野駅周辺の交通の状況と駐車場の配置



中央通りでは、乗降客の滞留が生じやすい長距離バスなどの停留所が点在している (京成上野駅前)



上野駅周辺では、広範囲に路線バスの乗降場が点在している (JR 上野駅入谷口付近)

■ JR 上野駅正面口の状況



3

分野別にみる上野の現況

(6) 生活・暮らし

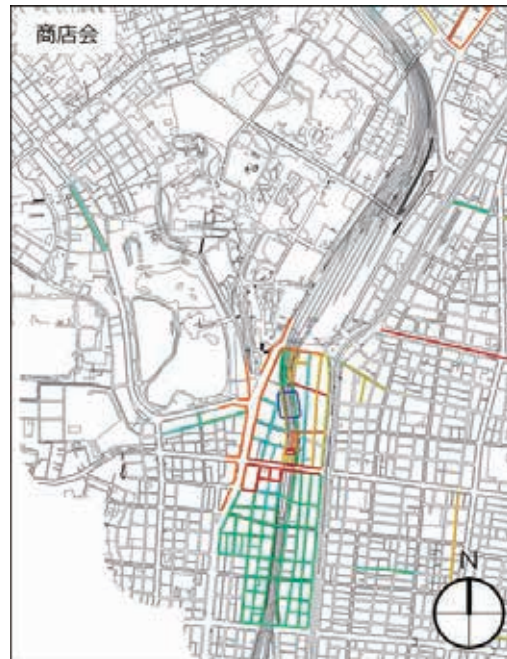
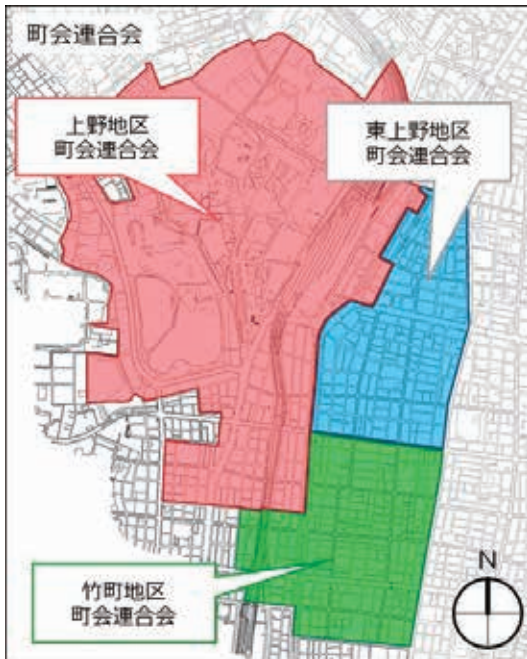
【まちの特徴（強み）】

- ① 地域で生活する人々による、歴史ある多様なコミュニティが存在する
- ② 下谷神社例大祭に代表される地域のお祭りや運動会等の主体的な活動が行われ、現在も強固なつながりがある

【まちの課題（弱み）】

- ① コミュニティの維持のため、まちの安全性の充実が求められる。

■ 地域コミュニティの状況



■ 多様なコミュニティの活動状況



町会連合会運動会



地域のイベント



地域のお祭り



下谷神社例大祭

(7) 防災

【まちの特徴（強み）】

- ① 広域避難場所に指定されている上野恩賜公園がある
- ② 上野地域の多くの建物が耐火構造（約 62%）であり、市街地の不燃性が高い（建物棟数：約 2,900 棟 耐火構造：約 1,800 棟）

【まちの課題（弱み）】

- ① 旧耐震基準（昭和 56 年以前）の建物が多く残っている（約 62%）（建物棟数：約 2,900 旧耐震建物棟数：約 1,800 棟）
- ② 首都直下型地震では上野駅周辺で 2 万 2 千人の屋外滞留者が発生すると推計されており、対策が求められる

■ 上野地区の防災に係る位置付け



出典：台東区防災地図

■ 建物構造



出典：上野地区まちづくり基礎調査報告書（平成 29（2017）年／台東区）

■ 建物経年数



出典：上野地区まちづくり基礎調査報告書（平成 29（2017）年／台東区）

■ 上野駅周辺の滞留予想

区市町村名	駅前滞留者数		待機人口	滞留場所不明人口	計
	屋内滞留者	屋外滞留者			
上野駅	84,910	22,217	107,127	17,647	135,303

- ※ 屋内滞留者 = 駅周辺で学校、職場等に滞留している人の総数
- ※ 屋外滞留者 = 駅周辺で私用、目的不明で滞留している人の総数
- ※ 待機人口 = 滞留目的が自宅及びその周辺の人の総数
- ※ 上野駅を起点 4km²圏内に存在する人数をカウントしている。上記のうち、「屋外滞留者」が駅周辺に集積すると予想される。

出典：上野駅周辺エリア防災計画 平成 27（2015）年

4

調査結果概要

(1) 交通調査結果概要

1. 上野駅周辺歩行者回遊行動調査

上野駅や御徒町駅を拠点に、こういった観光客がどのように回遊しているのかを明らかにするため、GPS ロガーを用いた移動軌跡調査を実施した。調査は首都大学東京と台東区が共同で実施し、調査データを用いて、回遊行動を分析した。

1-1. 実施概要

- ・調査実施日：平成 30(2018) 年 4 月 20 日 (金)、21 日 (土)、22 日 (日)
- ・JR 上野駅公園口、広小路口、JR 御徒町駅北口で GPS ロガーを配布回収
- ・分析に用いた有効サンプル数：144 サンプル

1-2. 分析結果概要

- 144 人中、上野公園 (A ゾーン) に 78% (112 人)、アメ横 (F ゾーン) に 52% (75 人) と多くの人を訪れている (重複あり)。
- ゾーン間の移動は、上野公園 (A ゾーン) とアメ横 (F ゾーン) との間で活発だが、その他のゾーン間での移動は少ない。上野駅東側への移動は少ない。
- 上野公園のみ、アメ横のみ訪れる人は、上記の内それぞれ 50% (56 人)、31% (23 人) となり、その外は他ゾーンとの間を移動している。



図1 立ち寄り状況

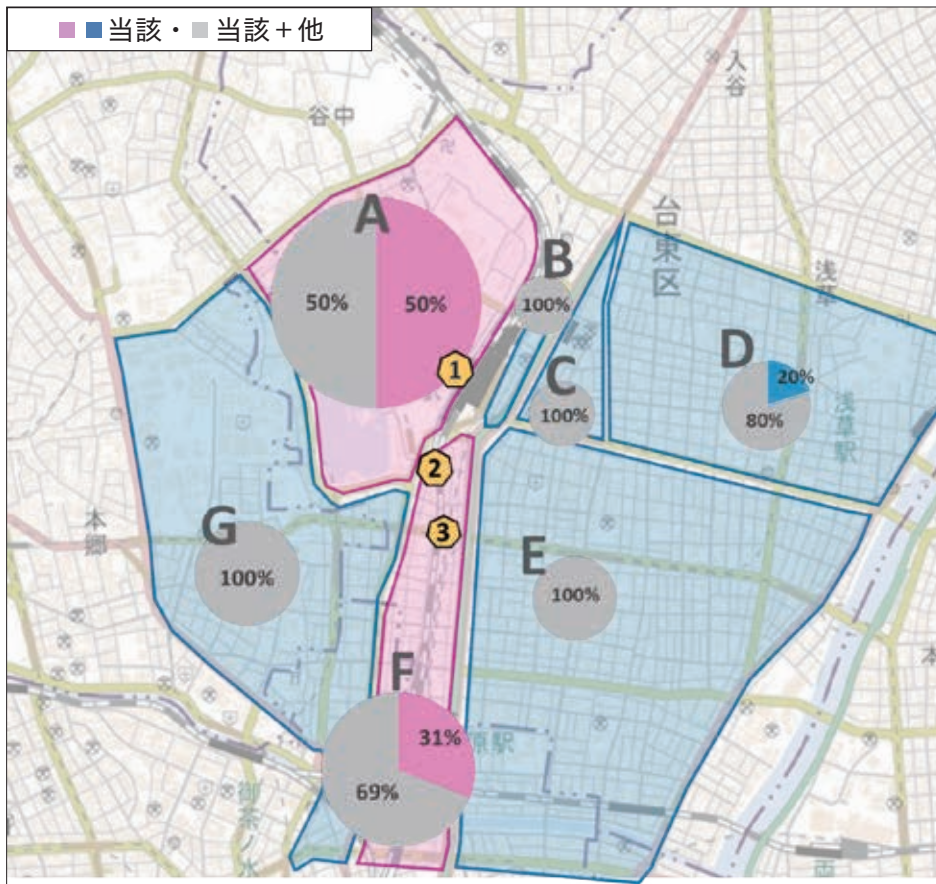


図2 当該での立ち寄り内訳

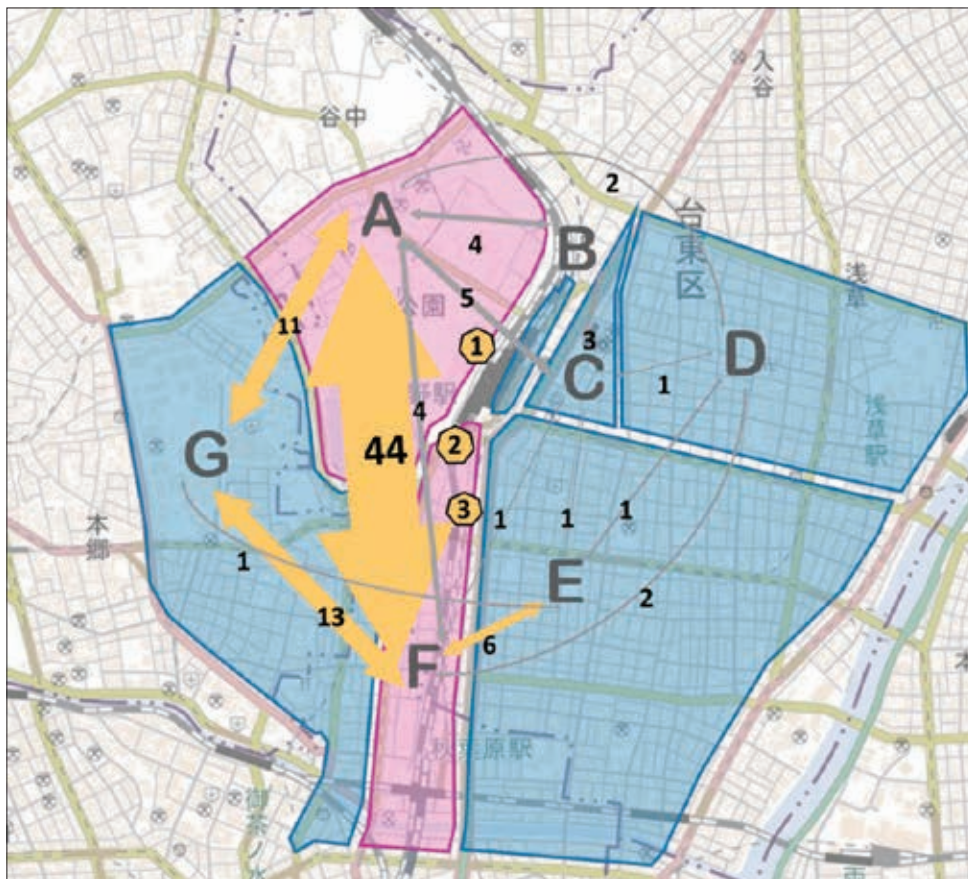


図3 ゾーン間の移動状況 (人)

4

調査結果概要

2. 交通量調査

上野駅周辺における歩行者と自動車の交通状況、JR上野駅駅前広場におけるタクシーの利用状況、アメ横地区の荷捌き状況を把握するため、各種交通量調査を実施した。

2-1. 実施概要

- 調査実施日：2018年4月22日（日）、24日（火）休日、平日各1日
- 自動車交通量調査、タクシー利用状況調査は12時間（7～19時）、歩行者交通量調査は14時間（7～21時）、荷捌き状況調査は9時間（7～16時）



図4 交通量調査実施箇所（調査地点）

2-2. 歩行者交通量調査結果

- 歩行者交通量（平日、休日）：ゾーン間の移動（7～21時）
 - 平日：休日と比較し、「上野駅～上野駅東側（東上野）」間の移動が多い。
 - 休日：平日と比較し、「上野駅～上野公園」、「上野駅～アメ横」、「上野公園～アメ横」間の移動が多くなる。

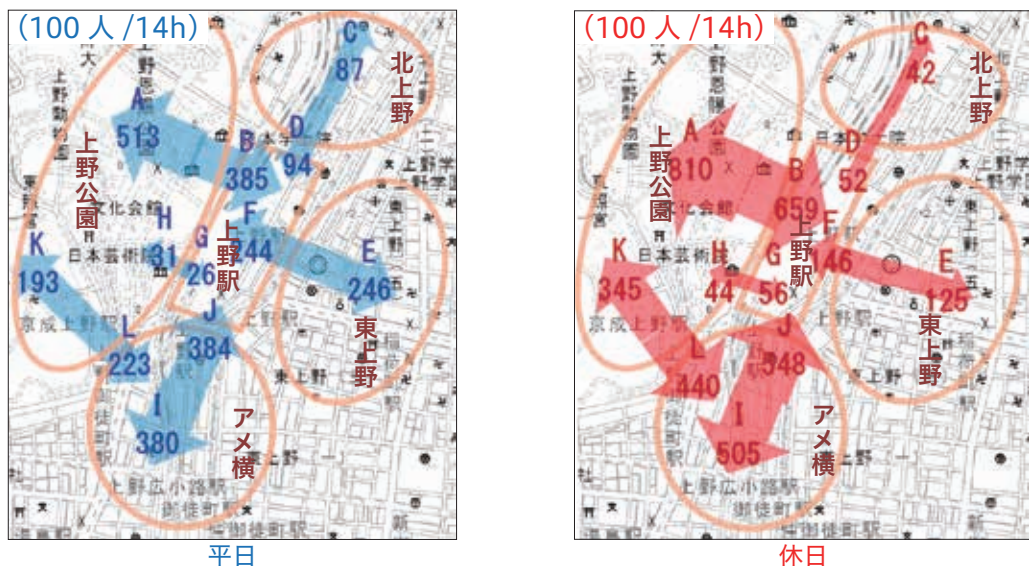
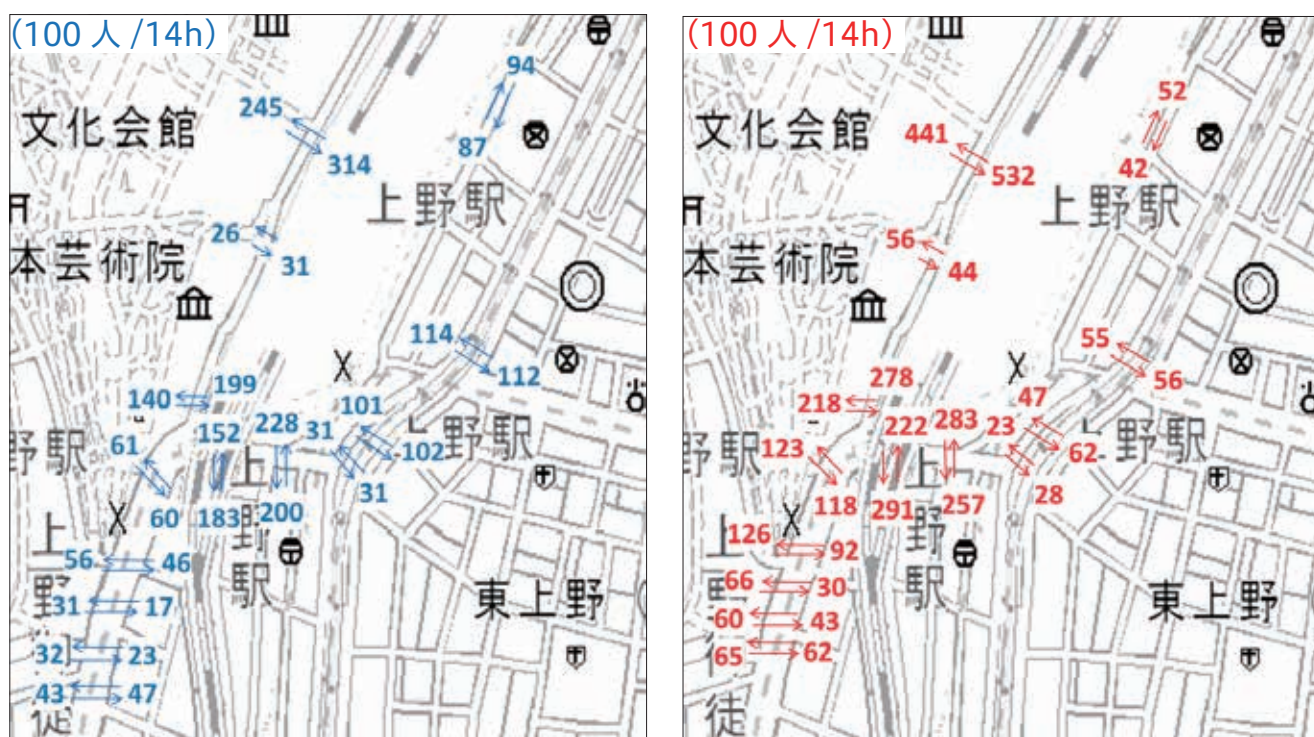


図5 歩行者のゾーン間の移動（単位：100人/14時間）

○ 歩行者交通（平日、休日）：調査地点別 14 時間交通量（7～21 時）

- ・平日：休日よりも交通量が少ない傾向の中、昭和通り交差点横断部（2.2 万人/14h）、ペDESTリアンデッキ（2.0 万人/14h）は、休日より多くなっている。
- ・休日：JR 上野駅公園口改札前の横断部（9.7 万人/14h）が最も多く、次いでマルイ前横断部（5.4 万人/14h）、不忍口前中央通り横断部（5.1 万人/14h）、ガード下交差点の区道 58 号横断部（5.0 万人/14h）、が多くなっている。



平日

休日

図 6 調査地点ごとの歩行者交通量（単位：100 人/14 時間）

4

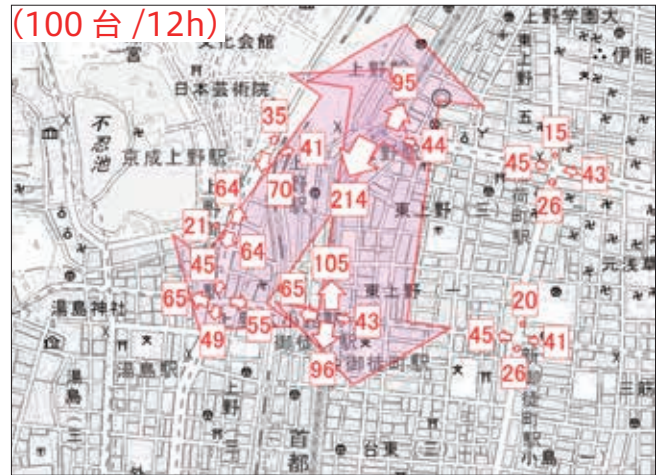
調査結果概要

2-3. 自動車交通量調査結果

- 自動車交通（平日、休日）：調査地点別 12 時間交差点流出交通量（7～19 時）
 - ・平日は、休日よりも交通量が多い傾向がある。
 - ・平日・休日とも南北方向の交通は、主に中央通りと昭和通りが担っており、並行する清洲橋通りへの交通量は少なくなっている。



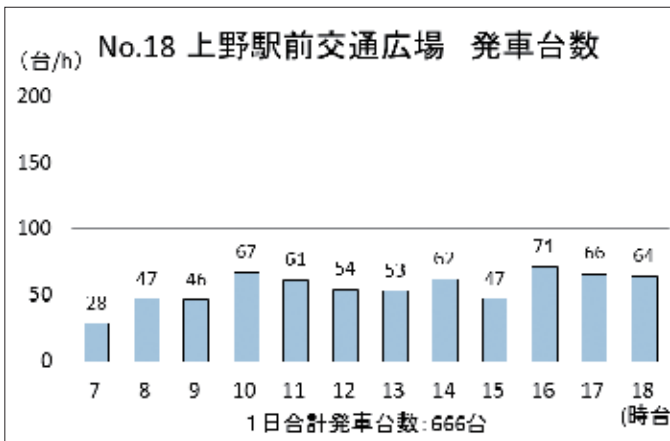
平日



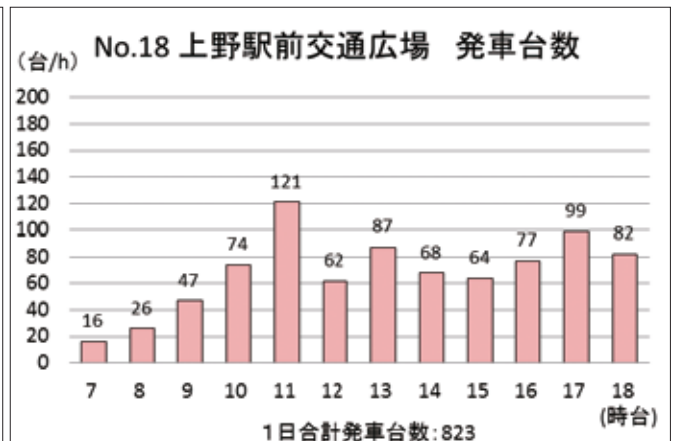
休日

図7 交差点交通量（単位：100台/12時間）

- タクシー利用状況（JR上野駅駅前広場）：12時間（7～19時）
 - ・平日：時間帯による大きな変動は見られない。
 - ・休日：11時台と17時台の利用が多い。



平日



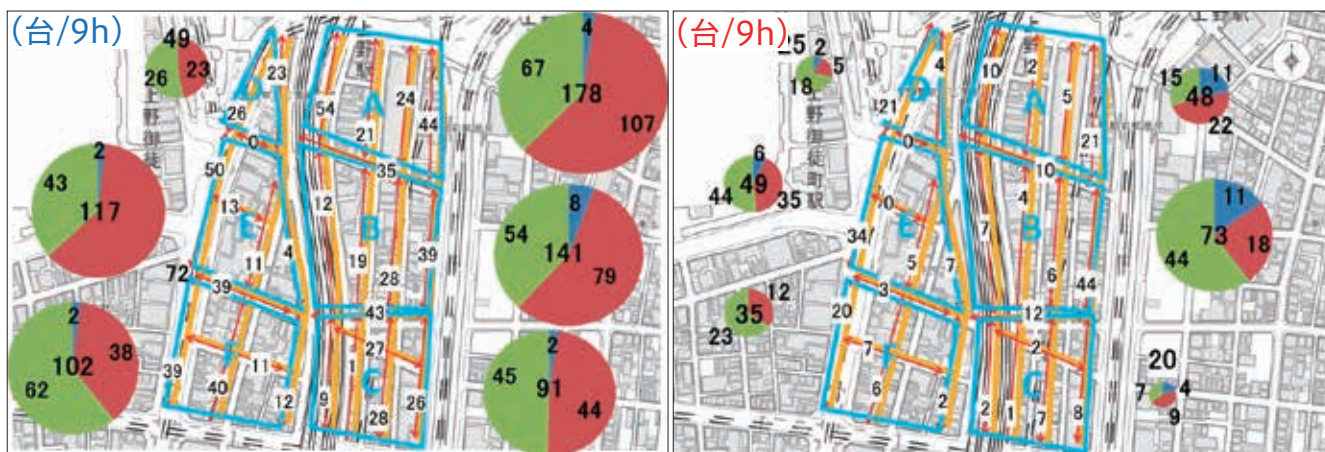
休日

図8 JR上野駅 駅前広場タクシー利用状況（発車台数）

○ 荷捌き状況（アメ横周辺地区）：9時間（7～16時）

・平日と休日で大きく状況が異なっており、平日は休日よりも利用が多い傾向がある。

■ 乗用車 ■ 小型貨物 ■ 普通貨物



平日

休日

図9 アメ横周辺地区におけるブロックごとの荷捌き状況（単位：台）

4

調査結果概要

(2) ブランディング調査結果概要

調査の目的

上野地区は、都の「都市計画区域マスタープラン」において、政治・経済・文化の中核として「センター・コア再生ゾーン」に区分され、文化、観光の拠点となる副都心を形成することとされている。一方、都心部や周辺地域における再開発等が進む中、同地区の拠点性の相対的な低下や、市街地の更新が課題となっている。

また、日本有数のターミナル駅である上野駅の周辺エリアは、民間による複数の都市開発事業等が連鎖的に行われることで、国際競争力を有し、交通の拠点となる駅周辺に相応しい土地利用転換が進む可能性がある。

そこで、本業務では、まちづくりの方向性を示す「上野地区まちづくりビジョン」を策定するにあたり、関係者ヒアリングや消費者インターネットアンケート調査を実施し、ビジョンにおける上野地区のブランディング方針を設定するにあたり活用するための基礎資料を収集した。

調査概要

(1) 関係者へのヒアリング

上野地区で活動する様々な主体者に対し、上野地区に対する認識、課題、日常的な上野地区における活動内容、今後のポテンシャル等に関するヒアリングを実施した。ヒアリング対象者は13名。

(2) 消費者インターネットアンケート調査

東京都（台東区）／東京都（台東区以外23区）／仙台圏（宮城県）／名阪圏（愛知県・大阪府）に居住する一般消費者1,200名に対し、上野地区に対するイメージ、来訪経験、来訪時の活動目的、回遊状況等に関する調査を実施した。

調査方法	インターネット調査
調査対象	調査地域に居住している18歳以上の女性
回収数	1,200サンプル
調査地域 および回収数	各エリア300サンプル ・東京都（台東区） ・東京都（他23区） ・仙台圏（宮城県） ・名阪圏（愛知県・大阪府）
調査時期	2018年12月
設問数	スクリーニング設問4問 本調査18問

回収数

	20～30代	40～50代	60～70代	合計
東京都（台東区）	100	100	100	300
東京都（台東区以外23区）	100	100	100	300
仙台圏（宮城県）	100	100	100	300
名阪圏（愛知県・大阪府）	100	100	100	300
合計	400	400	400	1200

調査結果概要

認知度は、仙台圏 **83.3%**、東京都（台東区以外） **96.3%**、名阪圏 **59.7%**
訪問経験は、仙台圏 **71.7%**、東京都（台東区以外） **83.7%**、名阪圏 **46.0%**

上野に親しみを持っているのは、仙台圏が **13.3%**、台東区が **31.9%**、東京都（台東区外）が **12.7%**、名阪圏が **5.0%**

個人属性では、**男性、年配層、未婚層、アート嗜好層**が比較的高い

上野のイメージは、「**芸術やアートに浸れる**」 **30.1%**、「**自然や緑が癒してくれる**」 **23.1%**が他の街に比べ極めて高い。

※それぞれの項目が次点に比べ選択率が10%以上高い

一方で、「好きな店・ショップが集まっている」や「自分と似た価値観の人が多く」、「自分が常連の店・施設がある」などは低い。

上野来訪時の訪問地は、「**芸術・文化ゾーンのみ**」が **30.5%**、「**庶民文化ゾーンのみ**」が **27.3%**、「**両ゾーン**」は **30.2%**

台東区民は「庶民文化ゾーンのみ」、他の地域の居住者は「芸術・文化ゾーンのみ」が多い

上野来訪時の来訪目的は、「**ショッピング・街歩き**」が **35.4%**、「**美術館・博物館**」が **30.4%**、「**食事**」が **25.7%**

「**歴史・文化遺産**」に関心が高いのは「**アート嗜好層**」 **23.1%**と「**アクティブ層**」 **41.5%**と、全体の **11.9%**に比べ高い

上野来訪時の同行者は、「**ひとりで**」 **39.8%**が多く、以下、「**夫婦・恋人**」 **23.4%**、「**友人・知人と**」 **17.0%**となっている。

「女性・ファッション層」は「家族で」が **28.3%**と他の層に比べて多い。

上野の2つの側面の認知度は「**芸術・文化の杜**」と「**多様な庶民文化の街**」の**両側面を認知している**のは **63.1%**、「**芸術・文化の杜**」のみは **6.9%**、「**多様な庶民文化の街**」のみは **1.8%**と、ほとんどの人が上野の両側面を認知している。

※**どちらも認知無し**は全体が **28.2%**で、仙台圏は **38.2%**、名阪圏は **53.2%**

認知度も関心度も高いのは「**アート嗜好層**」と「**アクティブ層**」で、**認知8割**前後
関心6～7割

調査結果に基づく現状と課題

	課題	機会・優位性
まちのイメージ	【コンテンツ・イメージ】 <ul style="list-style-type: none"> □ 台東区以外の人にイメージが浸透していない □ 20~30代や女性にイメージが浸透していない □ 「アート」「自然」以外のイメージが稀薄 □ 洗練、おしゃれ、先端的、というイメージはない □ “親しみ”を感じているのはアート志向層とアクティブ層のみ □ 東北圏在住者からの愛着は稀薄化 □ 上野“らしい”グルメや土産（物産）がない 	【コンテンツ・イメージ】 <ul style="list-style-type: none"> □ アート、公園の自然への評価・認知が高い □ 「芸術」「庶民文化」の双方が知られている □ アート志向層の来訪満足度は高い □ 「飲食・グルメ」への消費経験率は比較的高い
	【来訪目的・来訪者】 <ul style="list-style-type: none"> □ 「価値観が合うから行く」という選択理由は低い □ 普段の趣味（映画、音楽、ファッション、サブカル）を上野で行う人は少ない □ 目的性の低い人が来訪しない 	【来訪目的・来訪者】 <ul style="list-style-type: none"> □ 具体的な目的を持って来訪する人が多い □ 「芸術・文化ゾーンのみ」「庶民文化ゾーンのみ」「両方のゾーンを来訪」=1:1:1というバランス。比較的周遊されていると言える □ 「ひとり」「夫婦」「家族」と様々なセグメントが来訪している □ 滞在時間は、上野から居住地が遠いほど長くなる傾向にある
	【駅とその周辺】 <ul style="list-style-type: none"> □ 駅の構造が判りにくく、駅構内や乗り継ぎ時、駅からまちへの移動時に迷いやすい □ 駅を囲んで周遊することが困難（駅で分断） □ 案内サインがわかりにくい／少ない □ 駅と周辺における飲食・購買スポットが少ない 	【駅とその周辺】 <ul style="list-style-type: none"> □ 成田空港・羽田空港から1時間程度でアクセス可能なゲートウェイ機能がある □ 新幹線/京成電鉄/JR/東京メトロ等のハブ駅となっている □ 上野公園やアメ横エリアという観光資源集積箇所と直結している
街区	【公園・まち】 <ul style="list-style-type: none"> □ 夜間の治安に課題あり（公園も飲食街も） □ 高水準の宿泊施設や、宿泊施設の集積がない □ 街区構造が判りにくく、特定の道路に人が集中 □ 公園に来訪者が集中する □ 公園の滞留スペースや飲食店等の不足 □ アメ横を含むまちエリアに「つなぎ空間」がない □ 上野のオリジンである寛永寺の印象が稀薄 	【公園・まち】 <ul style="list-style-type: none"> □ 公園・まちともに、日常的に来訪者が多く、祝祭感がある □ 公園が広く、自由度の高い活動ができる □ 公園内が国内随一のミュージアム集積地区となっている □ 公園、まちともに、訪日外国人が来訪する主要観光スポットとなっている □ お祭りやイベントが数多く開催される
地域内の人々の認識・行動	【域内での活動】 <ul style="list-style-type: none"> □ 「おしゃれなもの」を上野に求めない（「おしゃれ」は上野にないと思っている） □ 同業者以外とのつながりが希薄 □ 新たな活動や文化が生まれる基盤のような場が少ない、まちの新陳代謝が薄い □ 家賃が高く、若手の居住・店舗展開が見込みにくい 	【域内での活動】 <ul style="list-style-type: none"> □ 生活のほとんどを上野エリア周辺で賄える □ 職人のワザが確かに生きており、歴史がある □ 博物館どうしの連携や、職人をつなぐ場が徐々に増えつつある □ 食事には事欠かない
	【街区への課題認識】 <ul style="list-style-type: none"> □ 滞留空間、「つなぎ空間」がない □ 駅からまちの構造が判りにくい、サインが少ない □ 夜間の公園・飲食街の治安に課題あり □ 景観の統一性のなさ □ 「一流」「随一」の店などがない 	【魅力認識】 <ul style="list-style-type: none"> □ 懐の深さ □ 美術館の集積 □ 公園の自然環境 □ 江戸期から累積する歴史と、それがまちの構造に表れていること □ 人のにぎわいがあること □ 山の手と庶民文化が混然一体となって融合していること

ブランディング調査結果を参考に描いた 上野で活躍する人々の未来予想図 (参考)



(3) ヒアリング調査結果概要

① 上野地区まちづくりビジョン策定委員会 まちづくり部会ワークショップにおける主な意見

- ワークショップⅠ班 対象：「働く人」（まちづくり協議会・観光団体・商店街の代表）
実施日：令和元年6月14日、10月2日
テーマ：賑わいのエリアにおけるこれからのまちづくりについて
- ワークショップⅡ班 対象：「住む人」（居住者の代表）
実施日：令和元年7月2日、7月25日
テーマ：居住と観光の調和について

ワークショップⅠ班		
テーマ	主なご意見	
①	まちづくり憲章について	・つくって終わりにならないよう、生きた憲章をつくる必要がある。
②		・憲章には、「まち全体の大きなアイデンティティ」、「憲章を守るべき対象者」、「進め方の段取り」の3点を盛り込むべき。
③		・対象エリアとしては、上野全体のイメージ形成に関係する範囲と、各エリアで決定していく範囲とそれぞれのエリア設定の整理が必要である。
④		・（上記に関連して）憲章は2階建て構造となるイメージ。上野のまち全体ではおおまかな理念を共有し、その理念の下で各まち（エリア）がそれぞれの特性を活かした憲章を設定し、宣言していく。
⑤		・他事例を見ると、（土地利用に）多様性が少ない住宅地の憲章は詳細に記載し、多様性のある商業地はおおまかに記載している傾向がある。
⑥		・「憲章」という言葉は、少し堅い印象を与えるのではないかと。注釈に「みんなで共有し、みんなで目指すべきこと」という説明が必要。ニックネームをつけるというやり方もある。
⑦	エリアマネジメント体制について	・エリアマネジメントを実施するためには、事業の黒字化が大きな課題となる。日本の既存のエリマネの仕組みでは、再開発によって生まれる床の賃料収入に頼るケースが多く、安定財源になるのは広告収入くらいである。上野ならではのエリマネ推進の仕組みづくりが必要となる。
⑧		・エリマネ組織の人員配置などの運営体制が構築できるかどうか大きなポイントとなる。
⑨		・既存のまちの組織がその範囲を広げてマネジメントするのは困難と思われる。横につながり新しい組織をつくる必要がある。
⑩	道路活用・建物更新ルールについて	・道路活用や建物更新などのルールについて、上野のまち全体で統一したものをつくるのは不可能。個別のエリア（町会・商店街・通りなど）ごとに規制のメリハリをつけて決定すべきものだが、そのことを憲章に記載するかは検討が必要。
ワークショップⅡ班		
⑪	これからの宿泊対応について	・違法民泊を利用していると思われるマナーの悪い外国人が増えてきており、住民の不安が広がっている。
⑫	賑わいのエリアにおける居住について	・まちに愛着をもち盛り上げてもらうためにも、町会等の地域コミュニティの強化が必要。

② 上野地区で活躍している方々への追加ヒアリング結果

- 追加ヒアリング 対象：現在上野で活躍している事業者・まちの運営者
実施日：平成28年8月3日、令和元年9月19日、9月24日、9月25日

テーマ	主なご意見	
①	1. 地区の特性	・当店がまちの発信基地であり居場所としての空間でありたいと考えており、まちの歴史や記憶を取り出せるインフォメーション機能などを持つ語り部としての役割を担っていきたい。そして、今ある既存店舗の一つ一つがそういう意識を高めていく必要がある。
②		・ガイドを育てることが非常に重要で、お客さんであってもその店で濃密な体験をすることで、次のガイドになってもらえる。
③	2. 地域の課題	・メディアが取り上げるディープな店のターゲット層である40～50代が、それより若い人達を同伴することにより、その後は若い人だけでも店に入りやすくなる。要は、店やまちを知っていて紹介する人（ガイド）の存在が必要。
④	3. 外来者について	・ご当地アイドルを使って、少しディープな場所を巡るモニタリングツアーを実施する予定。それをPRするための映像もあわせて製作し、情報発信することで外国人や若い女性にも訴求する。
⑤		・上野は、外来者の存在があってこそ完結し、魅力がうまれるまちである。
⑥	4. 商売エリアとしての上野の魅力・可能性	・東京に泊まりにくる人に対して「まずは上野に来たい」と思わせ、東京の中で上野が選ばれるよう、まちへの目的性を強化する必要がある。
⑦		・線路や道路などでまちが分断されており一体感がなく、補助交通等があると良い。
⑧	5. 上野のイメージキャッチコピー	・当店としては、他に競合する店舗がないのが魅力。現在のメインターゲットは、日常利用の60～70代の近隣客で、もう少し若い年代の顧客の獲得が課題。

テーマ	主なご意見
⑨ 1. 地区の特性	・ジュエリータウンに属する店舗の専門化・分業化を進めており、店舗間の回遊性や連携力の向上につながっている。また、そのPR動画の作成も検討中で、地域の魅力発信力の向上も視野に入れている。
⑩ 2. 地域の課題	・販売促進やエリアへの誘客促進に際して、さらに発信する力が欲しい。同時期に開催されている複数のイベント間の連携などもその実現の手段の一つ。
⑪ 3. 外来者について	・当地区には様々な組織や団体が存在する為、地域全体での連携検討時などにそれぞれの役割が分かりにくく、御徒町エリアと上野エリアの売人同士のコミュニケーションの場が少ない。
⑫ 4. 商売エリアとしての上野の魅力・可能性	・歩行者天国が実施できれば回遊性が強化され、今まで足を運んでいないエリアの魅力を発信できる。またインバウンド施策の一つとして、ナイトマーケットの導入も考えられる。
⑬	・地元の伝統工芸品の備品採用や魅力発信イベントの開催などの取組みにより、地域と客との橋渡しの役割を担う。ヒトが魅力のまちであり、人と人とのつながりを生む場所となっている。
⑭ 5. 上野のイメージキャッチコピー	・社とまちの回遊性を強化するためのアイデアとして、パンダ橋やペDESTリアンデッキにおいて、観光客と地元の人が双方が利用できるようなマーケット（市場）を開催すべき。観光化したマーケットではだめで、人と人との交流が生まれるようなマーケットが必要。

③ 上野地区まちづくりブランディング調査におけるヒアリング調査結果概要

対象：上野地区に関わる様々な立場の人・組織

実施日：平成 30 年 12 月～平成 31 年 2 月

テーマ	職種	主なご意見
1. 地区の特性 2. 地域の課題 3. 外来者について 4. 上野のイメージキャッチコピー 5. 上野エリアの今後のポテンシャル	アーティスト	4. なるべく多様なアーティスト（国籍や専門性など）を受け容れることにより、インプット・アウトプットの幅が広くなり可能性も増える。公園でのイベントを継続的に支えて育てるテクニカルチームの常駐が必要である。 5. アーティストや発信者どうしが繋がれる地域になっていない。藝大生が卒業後ネットワークを維持する場がない。
	学芸員 研究者	1. 人が集まる、とどまる場所ではなく、「人が交わる場所」という印象。また、狭いエリアに時間軸と幅の広い文化が集積する場所として稀有な存在である。 2. 上野恩賜公園や駅構内に人が集中しすぎており、駅からまちに人を誘導できるサインシステムの整備が必要。 3. 美術館、動物園、アメ横など街に来る目的が明らかな人が多く、なんとなく公園に来るといった人は少ない。 5. 動物園や科学博物館など、六本木などが誘客できない「ファミリー」を取り込めるのが大きな強み。ターゲット世代層の幅の広さが今後のブランディングの鍵となる。また、美術館・博物館・公園の協働プロジェクトチームにより、公園デザインやコンテンツを企画構成する等、公園の一体的な空間づくりが必要。ミュージアムを「社会課題解決の装置」として位置付けた、国内他地域に先駆けた取組みの推進に期待している。
	寺の住職 神社の神職	4. 上野の原点としての寛永寺の周知が必要で、周辺エリアへの人の流入が少ない。 5. 江戸時代の景色を完全復活することはできないが、その風情を示すことのできるスポットを整備することで、上野の歴史性を示す説得力が増す。地域における神社の意義は祭りであるが、日常的に参拝に来て清々しい気持ちになってもらうため、掃除等マナーや意義を伝えるツールを増やすことが重要。
	商業者 まちの運営者	1. 文化的・歴史的な拠点に加えて、アメ横等の歓楽街が同じエリアに集積しているところが面白く、カオスや懐の深さと息遣いが身近にあるまちの感じが魅力。 3. 「アジアのイメージ」で雑多な雰囲気や欧米人が楽しんでいる。外国人にとってわかりやすいエンターテインメントやナイトライフがない。 5. 若者・女性に楽しんでもらえる素材が少ないため、アンテナショップなどの実験的な場所を設け、発見のあるまちにすることが重要。
	住民	2. 公園にいと街が見えず街にいと公園が見えないため、お互いに見渡せない。若者と女性の来訪者が不足している。住民ニーズにあった買い物環境の充実（百貨店・スーパー等）が必要。 5. 住民と来訪者が積極的に交流する意識を持てるかが大事で、コミュニケーションを前提としたイベントが肝要。
	ものづくりに携わる人	5. 見学ツアーではなく、自分も参加してものを作るツアーや、若い人が参加しやすいイベントの実施や、上野駅構内にプロモーションスペースを設置し、上野ならではのモノの展示や職人の実演等の企画が必要。ものづくりクリエイター同士が「つながれる」地域になっておらず、地域内外のクリエイターが交流できる機会（場所やイベント等）が必要。
	文化・クリエイティブ産業に携わる人（上野に興味をもつ人々）	1. 江戸～現代にいたるまでの時代性やカルチャーがクロスオーバーするまち。様々な時代やカテゴリの文化が、更新されるのではなく、時代ごとに追加され、積み重なっている。 5. 色々なタイプの過ごし方ができるモデルルートを作るべき。また、公園エリアとアメ横エリアの「両方あってこその上野」という見せ方を強化すべき。もっとミックスカルチャーに舵を切るべき。これまで積み上げてきたカルチャーを手放すのではなく、その上にポップアートやグラフィックアーティストによるライブペイントを実施するなど、新しいカルチャーを積み重ねるのが重要。

5

パブリックコメントの実施

パブリックコメントの実施概要

パブリックコメント（意見公募）の実施について	
案の名称	上野地区まちづくりビジョン 中間のまとめ
案の趣旨・概要	上野には、世界に誇る資産や多様で歴史ある魅力が集積しており、日本の文化芸術立国を牽引し、国際競争力を強化する文化・芸術の創造発信拠点を形成することが期待されています。そこで、概ね20年後の状況を想定し、2040年代頃の上野の将来像と取組みの方向性を示す上野地区まちづくりビジョンを策定しています。
意見募集期間	令和元年12月17日（火）～令和2年1月9日（木）必着
意見を提出できる方	<ul style="list-style-type: none"> ・台東区内に住所を有している方 ・台東区内の事務所、事業所に勤務している方 ・台東区内の学校に在学している方 ・台東区内に事務所、事業所を所有している方 ・この中間のまとめに利害関係を有している方
案の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所5階⑦-1番 地域整備第一課窓口にて閲覧 ・区役所3階 区政情報コーナーにて閲覧 ・区内区民事務所・同分室・地区センター窓口にて閲覧 ・生涯学習センター1階受付にて閲覧 ・区公式ホームページにて公表
意見の提出方法 ・提出先	<p><u>書面持参による場合</u> 上記「案の公表方法」の各窓口持参</p> <p><u>書面の郵送による場合</u> 所定の意見用紙を下記住所まで郵送 〒110-8615 台東区東上野4-5-6 台東区役所 都市づくり部地域整備第一課</p> <p><u>FAXによる場合</u> 所定の意見用紙を右記番号へ送信 03-5246-1359</p> <p><u>区公式ホームページの意見提出入力フォームによる場合</u> https://www.city.taito.lg.jp/cgi-bin/formmail/formmail.cgi?d=r1tiiki101 トップページから「パブリックコメント」>現在募集中の意見>「上野地区まちづくりビジョンについてご意見を募集しています」へアクセスし、意見提出入力フォームへ入力</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭や電話でのご意見はお受けできません。 ・ご意見を提出される際は、必ず住所、氏名等を記載してください（匿名のご意見はお受けできません）。 ・個人情報、東京都台東区個人情報保護条例に基づき適切に管理し、パブリックコメントの実施以外の目的には使用しません。 ・ご意見は公表しますが、その際、個人情報は公表しません。 ・ご意見に対する個別の回答はいたしませんのでご了承ください。

パブリックコメントの実施結果

①実施概要

パブリックコメント案の名称	上野地区まちづくりビジョン
意見受付期間	令和元年12月17日（火）から 令和2年1月9日（木）まで
意見受付場所	区公式ホームページ上での受付のほか、各区民事務所・分室・ 地区センター、区政情報コーナー、生涯学習センター、地域整備 第一課窓口で中間のまとめ閲覧・意見受付
意見受付件数	6人 19件
提出方法の内訳	ホームページ 2人 3件、郵送 2人 14件、 FAX 2人 2件

②提出された意見と区の考え方

（意見欄はご意見の主旨を損なわないため、原則として原文のまま記載しております。ただし誤字等については修正をしました。）

番号	意見	区の考え方
1	「4-（2）まちの取り組み」として、①外部の人々との交流の場・施設の整備（まち1）、②来訪者への配慮（まち2）は、大切ですが、それ以上に大切なのは、③上野で住む人々への配慮です（まち3）。そのための取り組みとして、商業・業務・宿泊と並んで、住宅を通じた高質都市機能の導入は肝要です。そして、職住近接の都市・上野での居住の促進と地域コミュニティの強化は意義あるものと考えます。	「住宅等の多様で質の高い都市機能の導入」（P15）や「職住近接の都心居住の促進とまちへの愛着を継承する地域コミュニティの強化」（P15）など、上野で住む方々に配慮したまちづくりを推進してまいります。
2	上記を実現するための推進体制として「多様な主体によるまちづくりの推進」は不可欠ですが、推進主体を町会連合会に限定している（24頁）のは問題（時代認識不足）です。下町住人の構造変化を見通し、都心居住の促進を図る観点からはマンション住人（勤め人）の増大（流入）は避けられない趨勢です。従来からの町会構成員は商人・自営業者中心でしたが、勤め人が多いマンション住人の地域への愛着心は多様であり、住人のコミュニティ形成には町会とは別の対策が求められます。マンション住人一括での町会加入を強制することは住人意識の面からもマンション管理組合を巡る法的側面からも無理があるからです。	「多様な主体の協働によるまちづくりの推進」（P24）に掲げたまちづくりの多様な主体のイメージにおいて、「町会連合会」は居住者全体の代表例として示したもので、限定したものではありませんが、よりわかりやすい表現とするため、以下のとおり記載を変更いたします。 「住民町会連合会」 「商業者商店街連合会」

※注釈：「区の考え方」の本文中に記載の頁番号は、上野地区まちづくりビジョン本編の引用箇所を示す。

5

パブリックコメントの実施

3	<p>私は地元の小・中・高校および大学に徒歩通学し、上野の杜と下町情緒への愛着は人一倍のものがあり、会社定年後に戻り住み、地元町会とも関わりながら、地域コミュニティの強化に取り組みたいと考えてはいるものの、従来のような町会活動は変容を免れないものと考えます。</p>	<p>「まちへの愛着を継承する地域コミュニティの強化」(P15)に向けた取組みを、住民の皆様との協働により進めてまいります。</p>
4	<p>時間の認識が全くない。今10年間で社会がどう変化するか。20年後のことを誰が想像できるか。夢のみでは人は動かない。真剣に早くこの計画を策定する人達が自身のこととして携わって欲しい。上野は日本中誰でも知っている。上野の発展は地元台東区だけではない。東北の人達、皆の思いである。台東区の価値を再考して欲しい。</p>	<p>短期・中期・長期の目標スケジュールを念頭に、「上野らしさの価値をあげる」(P15)まちづくりを着実に推進してまいります。</p>
5	<p>「杜」は日本の歴史伝統に育まれた「風格」と第一級の文化芸術施設が集積する場所であると共に、諸外国に比べ緑地率が極めて低い都心において「みどりと水」が残されたかけがえのない場所です。「杜とまちを重ね・つなげる」に当たっては、それらを永続的に維持できるような取組みをお願いします。商業主義に過度に侵食されないような取組みを期待。</p>	<p>「杜まちの取組み」においては、杜の「みどりのひろがり」(P19)を念頭におくとともに、杜の取組みである「文化の杜に相応しい賑わいや公園機能の維持・向上」(P13)の実現に向けて、「貴重なみどりと水辺の空間を活かした滞在場所の整備」(P13)などに取り組みんでまいります。</p>
6	<p>「杜」の「歴史」について、服部区政の「台東江戸ルネッサンス」の取組みを更に更新し、それによって「杜」とそれに連なる「まち」が「格式と伝統ある文化芸術の地」であることを国内外に更に発信し、上野地区と台東区全体のイメージアップにつなげていただきたい。</p>	<p>「国際競争力を強化する文化・芸術の創造発信拠点の形成」(P21)の実現に向けて、「杜」と「まち」を含む上野地区全体で取り組んでまいります。</p>
7	<p>「まち」の収益性向上、活性化にプラスになる、高級感のある賑わいが必要ではないか。今現在、高級品を求める消費者や観光客は日本橋などに流れてしまっているように感じる。日本橋、東京駅エリアにはマンダリンオリエンタル、フォーシーズンズ、アマン、シャングリラなど高級ホテルも多く、成田空港等からのアクセスも上野より上がっているため、危機感がある。</p>	<p>国際都市に相応しい「商業・業務・宿泊・住宅等の多様で質の高い持続可能な都市機能の導入」(P18)を図るよう、まちづくりを進めてまいります。</p>
8	<p>「杜」の「賑わい向上」に当たっては、「騒音」「光害」「池の水質汚濁」など、自然や周辺の住環境を損なうような賑わいではなく、一等地である杜の風格を活かした賑わい創出をお願いします。</p>	<p>「杜の賑わい向上に向けた環境づくり」(P13)にあたっては、文化の杜に相応しい賑わい創出を図るよう、関係機関と連携し、まちづくりを進めてまいります。</p>

9	<p>現況の上野公園内野外ステージは老朽化して雨風が吹き込む構造なので、集客も見込めないように感じる。外部への騒音の問題も発生している。場所としては国内外からのアクセスがよいので、建替えリニューアルにより「杜」の賑わい創出に役立ててはどうか。</p>	<p>いただいたご意見も参考に、「杜」における「文化・芸術の創造・表現、交流の場づくり」(P13)による「杜の資源の価値・魅力を高める都市機能の強化」(P13)の実現に向けて、まちづくりを進めてまいります。</p>
10	<p>自然災害時、観光客や住民、帰宅難民に「安全で快適な」一時避難場所として、現在の「野外ステージ」なども考えられると思うが、現在は雨風に吹きさらし構造となっており、災害時に避難民を収容する建物としては不安がある。上野公園一帯には多くの避難民が集まると想定されるので、観光客なども安全に収容できる建物への改造が必要ではないか。現「下町風俗資料館」についても同様。</p>	<p>いただいたご意見も参考に、「地域防災力の向上に資する災害時の活動拠点機能の充実」(P13)を図るよう、まちづくりの多様な主体の皆様と連携して、エリア防災力の向上に資するまちづくりを進めてまいります。</p>
11	<p>「住民ニーズに応じた買い物環境」について、現在、区人口の約45%を占める新住民(転入から10年以内)の価値観にもマッチした、ハイクオリティで、トレンドな買い物環境を「まち」に創っていただきたく存じます。</p>	<p>「上野で住み、働くための都市機能の強化」(P15)に向けて、商業等の多様で質の高い都市機能の導入や、職住近接の促進を図るよう、まちづくりを進めてまいります。</p>
12	<p>「住民や来訪者との交流」について、区内には伝統ある工房が数多く存じますが、住民であっても「ホンモノ」の技をなかなか目にすることができません。現在の「下町風俗資料館」や現在の「野外ステージ」などを整備し、常設で区民や観光客などが伝統工芸などの技を体験でき、交流できるような場としていただければありがたいです。</p>	<p>いただいたご意見も参考に、「杜とまちの相乗効果を生み出す都市機能の導入」(P18)に向けて、上野の資源を活かした、文化・芸術の創造・表現・交流の場を創出するよう、まちづくりを進めてまいります。</p>
13	<p>エリアマネジメント組織には、自営商業者中心の既存組織だけではなく、まちづくりに関わるNPOや区民の約8割が住んでいる集合住宅民の組織など、新しい組織・団体も参画させ、様々な属性・階層の人々の声(多様な主体の提案)を汲み取れる体制を創っていただきたい。「多様な主体との連携」は服部区政の方針でもあり、国も現在、省庁を跨いで「新たなコミュニティの創造を通じた新しい内発的発展が支える地域づくり」という施策を進めている。</p>	<p>新たなエリアマネジメント組織・体制づくりの中で、様々な属性・階層の方々にもご参画いただけるよう、働きかけてまいります。</p>
14	<p>エリアマネジメント組織の構成員を既存組織に限定し、「まち全体としての利害調整と戦略提案」を行わせることを想定しているのであれば、既存組織への負担が重すぎないか。エリアマネジメントには既存組織以外に、NPO等や新しいコミュニティに加わってもらい、既存任意団体だけに負担がかからないような体制にしてはどうか。</p>	<p>新たなエリアマネジメント組織・体制づくりの中で、様々な属性・階層の方々にもご参画いただけるよう、働きかけてまいります。</p>

15	<p>台風や集中豪雨が激甚化・頻発化する近年、上野公園だけではなく、「杜」の草地面積を増やし、舗装せざるを得ない箇所は浸透性舗装に替えるなど、「杜」や「まち」の治水機能（雨水の地下浸透）を守っていただきたくお願いします。都などのご努力で上野公園内の建蔽率が低減され、公園内の舗装は大部分が透水性となっていますが、昨年的大型台風襲来時に川崎市において発生した内水氾濫が周辺地域で発生しては大変です。タワーマンションのみならず、地下に受変電施設や揚水ポンプを持つビルや集合住宅は無数にあるので、下水の負荷軽減をお願いいたします。ヒートアイランド対策にも有効と考えます。</p>	<p>「平時の営みの中で実現するエリア防災力の向上」（P15）を目指し、まちづくりの多様な主体と協働で、まちづくりを進めてまいります。</p>
16	<p>山手線の主要駅の1つ、上野駅は他の駅と異なり回りには古くからの街並を有した住勤一体の街並が広がっています。古くからの文化の継承と共に新しいものの受け入れも行なって来ました。しかし、現在の上野は、特に駅周辺はつぎはぎだらけの歩道やその場限りに作ったと思われる構造物により、人の流れを全くと言っていいほど無視をした景観になってしまっています。ここであらためて駅、公園、街を一体にとらえ、10年20年の展望をとらえたまちづくりを構築する必要があると思います。今を整理し、こののち子孫に胸をはって残せることが出来る計画を作成して頂きたい。またその一部にも案としても加わることが出来るよう10年後からと言わず、今から我々の上野に対する思いをもりこんでほしい。10年後からでは遅いと思います。</p>	<p>「杜とまちをわかりやすくつなぐ上野の歴史を活かした都市空間の創出」（P17）や「杜とまちの相乗効果を生み出す都市機能の導入」（P18）により、杜とまちを重ね、つなげる「みんなの広小路」（P20）を創出し、駅と公園とまちが一体となったまちづくりの早期実現を目指し、着実に進めてまいります。</p>
17	<p>ビジョン中間のまとめに記載されている将来像と取り組みの方向性に賛同します。少子高齢化、観光客の増加に対応した安全安心な町を目指すことは勿論のこと、商業面の活性化だけでなくバリアフリー指向の歩道整備と美化、町（建物群）の景観改善を意識して頂きたい。例えば袖看板や道に置かれた看板等は災害時のリスクにもなり得るため、具体化のためには建築関係の条例整備、税制面の支援、規制の強化等にも期待します。</p>	<p>「将来の変化に対応した、しなやかな都市空間の形成」（P15）を図るため、「積み重ねた歴史が息づくまちの景観形成と賑わいのルールづくり」（P15）やそのための誘導方策などの検討も進めてまいります。</p>
18	<p>秋葉原から御徒町へ向かう人の流れが増えており（特にJR高架沿いが顕著）、歩道整備（特に5丁目側）を検討しては如何でしょうか。また、JRと連携し高架下の美化整備に取り組んで頂きたい。中央通りに関しても同様で、都と千代田区との連携を期待します。目につく課題は、放置ごみの清掃、樹木や植栽、タバコ吸い殻のポイ捨てです。</p> <p>個別の地域特性に応じて風俗業は勿論のこと、その類似業種（不健全なマッサージ等）の出店規制も必要と感じます。</p>	<p>いただいたご意見も参考に、「ひと中心の空間活用と歩行者ネットワーク強化による回遊性向上」（P17）、「国際都市の顔に相応しいおもてなし空間の創出」（P17）などの実現に向けて、まちづくりを進めてまいります。</p>

上野地区は、山手線の他のターミナル駅（池袋、新宿、渋谷、品川等）に比して駅周辺エリアの基盤整備や高度利用が進んでおらず、その推進が望まれます。上野駅周辺では、JR 敷地・周辺街区を含めた一体的な基盤整備や都市機能の導入を図ることで、地域課題の解決（駅東西のアクセス改善、賑わい創出等）に資するまちづくりが促進され、周辺エリアのバリューアップも期待できます。従いまして、今回の「上野地区まちづくりビジョン」で示されている「将来像」や「取組みの方向性」の内容につきましても、概ね共感・賛同致しております。

一方で、将来像の実現に向けた「目標スケジュール」や「推進体制」につきましても、より前倒しで具体的なプロジェクトに着手していく旨の内容に見直して頂きますよう、ご検討をお願いいたたく存じます。上記の他のターミナル駅周辺エリアではいずれも、長期的な将来像の実現に向けた再開発事業等が段階的に進められており、既に完成に至った案件も複数ございます。2030年代を待たずに複数のプロジェクトの事業化を推進頂かなければ、上野地区が今後も競争力を維持していくことが可能か懸念されます。どうぞよろしくお願い致します。

「杜とまちをわかりやすくつなぐ上野の歴史を活かした都市空間の創出」(P17) や「杜とまちの相乗効果を生み出す都市機能の導入」(P18) により、杜とまちを重ね、つなげる「みんなの広小路」(P20) を創出することで、駅と公園とまちが一体となったまちづくりの早期実現を目指し、まちの価値をあげる取組みを進めてまいります。

目標スケジュールについてはあくまで目安ですが、「主な節目」(P23) なども目標としつつ、将来像の実現に向けた段階的な事業実施が図られるよう、まちづくりの早期実現を目指し、着実に進めてまいります。

上野地区まちづくりビジョン策定委員会

日時	会議	議事
平成 29 年 11 月 1 日	第 1 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会	(1) 上野地区まちづくりの将来イメージについて (2) 取り組みの方向性について (3) 今後の進め方について
平成 30 年 6 月 22 日	第 2 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会	(1) 第 1 回ビジョン策定委員会の振り返り (2) 基盤整備部会における検討状況について (3) 副都心上野まちづくり協議会からの提言について (4) 「上野地区の将来像（目指す姿）」と「検討テーマ」について (5) 今後の検討の進め方について
平成 30 年 12 月 25 日	第 3 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会	(1) 第 2 回ビジョン策定委員会の振り返りについて (2) まちづくり部会における検討状況について (3) 基盤整備部会における検討状況について (4) ビジョンの骨子イメージについて (5) 今後の検討の進め方について
令和元年 9 月 6 日	第 4 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会	(1) 第 3 回ビジョン策定委員会の振り返りについて (2) 上野「文化の杜」新構想との取組み連携について (3) まちづくり部会における検討状況について (4) 上野地区まちづくりビジョン（たたき案）について (5) 今後の検討の進め方について
令和元年 12 月 4 日	第 5 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会	(1) 第 4 回ビジョン策定委員会の振り返りについて (2) 基盤整備部会における検討結果について (3) まちづくり部会における検討結果について (4) ビジョン（中間のまとめ）について (5) 今後の検討の進め方について
令和 2 年 1 月 27 日	第 6 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会	(1) 第 5 回ビジョン策定委員会の振り返りについて (2) 各所からの主な意見と対応について (3) ビジョン（最終案）について (4) 今後の上野地区まちづくり推進について

上野地区まちづくりビジョン策定委員会基盤整備部会

日時	会議	議事
平成 29 年 12 月 13 日	第 1 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会基盤整備部会	(1) 基盤整備に係る現況について (2) 基盤整備に係る検討項目について (3) 今後の基盤整備検討の進め方について
平成 30 年 3 月 22 日	第 2 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会基盤整備部会	(1) 第 1 回基盤整備部会での主なご意見と対応について (2) 上野地区まちづくりにおける交通調査内容について (3) 上野地区まちづくりにおける基盤整備の考え方について ・上野地区まちづくりの考え方について ・上野地区まちづくりにおける基盤整備の考え方について ・上野地区まちづくりの詳細イメージについて (4) 上野地区まちづくりビジョン策定委員会への報告内容について (5) 今後の基盤整備検討の進め方について
平成 30 年 11 月 19 日	第 3 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会基盤整備部会	(1) 第 2 回基盤整備部会の振り返り (2) 交通量調査結果について (3) 交通量変化の分析に向けた基本的な考え方について (4) 今後の基盤整備検討の進め方について
令和元年 11 月 13 日	第 4 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会基盤整備部会	(1) これまでの振り返り (2) 追加交通調査結果について (3) ビジョンの最終確認について (4) 今後の進め方について

上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会

日時	会議	議事
平成 30 年 7 月 13 日	第 1 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会	(1) 「上野地区まちづくりビジョン」について (2) 副都心上野まちづくり協議会からの提言について (3) まちづくりの方向性に係る意見交換 (4) 今後の検討の進め方について
平成 30 年 9 月 26 日	第 2 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会	(1) 第 1 回まちづくり部会での主な意見 (2) 上野地区のクオリティについて (3) 上野地区のキャパシティについて (4) ポストモータリゼーションについて (5) 今後の検討スケジュールについて
平成 30 年 10 月 24 日	第 3 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会	(1) これまでの検討内容について (2) まちづくりの取組みについて（エリアマネジメント） (3) 今後の検討スケジュールについて
令和元年 8 月 5 日	第 4 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会	(1) これまでの検討内容について (2) ワークショップ等の実施状況について (3) 取組みの方向性について (4) 今後の進め方について
令和元年 10 月 24 日	第 5 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会	(1) 第 4 回策定委員会の報告について (2) ワークショップ等の実施状況について (3) ビジョンの最終確認について (4) 今後の進め方について

ワークショップ等 I 班：「働く人」（まちづくり協議会・観光団体・商店街の代表）

日時	会議	議事
令和元年 6 月 14 日	上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会 ワークショップ I (第 1 回)	(1) これまでの検討内容について（策定委員会・まちづくり部会） (2) 取組みの方向性について (3) 次回ワークショップについて
令和元年 10 月 2 日	上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会 ワークショップ I (第 3 回)	(1) 第 4 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会（9 月 6 日開催）報告 (2) 上野地区で活躍している方々へのヒアリング結果報告 (3) 意見交換 ・まちづくり憲章について ・エリアマネジメント体制について ・道路活用ルールについて ・建物更新ルールについて

ワークショップ等 II 班：「住む人」（居住者の代表）

日時	会議	議事
令和元年 7 月 2 日	上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会 ワークショップ II (第 2 回)	(1) ワークショップの開催について ・これまでの検討内容について（策定委員会・まちづくり部会） (2) 議題 ・民泊について ・意見交換会 ・今後の予定について
令和元年 7 月 25 日	上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会 意見交換会 II	(1) これまでの検討内容について（策定委員会・まちづくり部会） (2) 賑わいエリアにおけるまちづくりの方向性 (3) エリマネ組織（副都心上野まちづくり協議会）との関係について (4) 次回まちづくり部会について

◆上野地区まちづくりビジョン策定委員会における主な意見◆

第1回策定委員会	
発言者	主なご意見
学識委員	多様な地域を結びつけるには結節する部分がそれぞれのゲートになり、更にまちに広がりをもたせるような空間構成とする必要がある。
	まちづくりにはステップが必要で、まずは2020のオリパラのときに情報発信し、地域のブランディングが打ち出せるかが鍵。 まちは、かつて寛永寺の門前町としての性格をもっていたが、今後いかに多様な目的の受け皿となるか検討すべき。「上野らしさ」について、今の時代として再定義をする必要あり。他地域と比較して周回遅れ状態であり、他とは全く違う別の価値観を持ち込む必要がある。 上野には歴史の重層性があり各時代で文化的な中心性を求められてきたまち。その歴史的に多様な資源がいかに一体感を持ったものとして打ち出せるかがポイント。
区民委員	まちなりわいや歴史の中に今のまち全体が形成されているという視点を忘れて、ただ新しくするのはだめ。まちの人たちはみんなまちに対する愛情が非常に深い。
	上野の山と駅とまちとが一体化することで、回遊性の向上や長時間滞留を実現し、快適なまちとする必要あり。安心・安全なまちとし、何度も来訪してもらえようようにしたい。 他のクローンをつくるのではなく、新たな道を模索すべき。滞留時間を長くさせるためには、新たなコト消費によらなければ、今後成り立っていかない。
その他	鉄道敷地がまちの中心にあり、まちを分断している中で、いかにまちを活性化するために資することができるか検討したい。
	上野駅は交通結節機能の改善が課題で、鉄道同士や、鉄道とバス、車の乗り換え等を含めて、広場空間等をいかに整備するかが課題。
	今後訪日外国人のお客様を多くお迎えすることが予想され、他線との乗り継ぎを大切に考えたい。
	上野は関係者が多く、都市基盤の整備は関係者調整が大事で、全員で議論ができる場合は非常に大事である。
	まちと道の成り立ちの経緯から、まちの中に大きな道路が走っているという構造が多く、いかに道路が邪魔にならないようにまちづくりと一緒に取り組むよう意識したい。 公園への来園者に対し、まちのイベントとの連携やわかりやすいマップをつくるなど、ソフト的な対応も必要。 公園が人を引きつけて、来園者が居心地よく過ごせる公園を目指すため、地域の思いや期待に耳を傾けたい。

第2回策定委員会	
発言者	主なご意見
学識委員	「文化・芸術」をどう捉えるかという議論が必要。今あるものを活かすだけでなく、まちにあるものも含めて、その幅をひろげていくということではないか。
	上野公園は、道路により周辺地域と分断されているとともに、公園内の各施設が柵によって細かく区画されている。道路が人中心のみちに変わり、各施設の柵がなくなることで、上野公園とその周辺の一体感が出て、まちとのつながりが強くなる。
	日本が一番激動した幕末から戦災復興にかけての100年間（1850年～1950年）に、上野はあらゆる局面で中心であり、非常に重要な歴史資産を有している。山からまちについて、この歴史を一体的に、海外インバウンドに向けてわかりやすく提示できれば、回遊性向上につながる。
	山の文化・芸術の拠点だけでなく、まちの文化が両立していることが上野の魅力。まちの賑わい、活気、まちの中での活動が、時を経て伝統や守るべき文化になっていく。そういうまちを上野で実現していく、というニュアンスを伝えたい。
区民委員	上野のまちに何回来てても楽しめるような、リピーターを増やすための議論をまちづくり部会で行いたい。
	外国人来訪者にとって、上野が初めての日本であり、日本の第一印象を与えるという点から、上野は玄関口として、非常にきれいでなければいけない。また、上野が持つ歴史性、文化性、伝統を維持しながら再開発してほしい。 これまで、山とまちがいろいろな形で交流していこうと議論があったにも拘わらず、それが実現できていないため、文化交流などを通じて、お互いの交流を実現したい。
その他	これから上野に移住してくる人や上野に来て活動する人など、旅行者も含めて、これまで想定していなかった人をどう受け入れていくかという視点が重要。

第3回策定委員会	
発言者	主なご意見
学識委員	「上野の将来像」は以前よりかなりまち側のイメージに近づいてはいるが、「文化・芸術の殿堂」が、まだ少しかたい感じがする。何かまちの新しいあり方みたいなものをうまく表現し、キャッチコピーとして世界や日本の他の地域の人々に向けてわかりやすく伝えるべき。
	これまでは消費が移動を生んできたが、これからは、美術館・博物館等での経験、いわゆるコト消費と、それを目的に訪問した結果みつかる集積の2つがないと、都市を訪れる意味がないという時代に移行している。
	外から見た上野はどう見られているのかという点も意識すべき。
	今後の推計において、駅から出てくる人がどのように動くのかを掴んでおく必要がある。
	「取組みの方向性」は、ビジョンを実現するための具体的な施策につながっていくが、これがビジョン全体の方向性と合っているのか、今後、「まちづくり部会」「基盤整備部会」「上野文化の杜」においてよく議論してもらいたい。
今後、各部会では、何を大切に何を変えていくのかという議論をより丁寧に実施し、皆さんが合意できるルールを設定するのが今後の運用に当たり重要となる。	
区民委員	「上野の将来像」について、「粋（すい）」と「粋（いき）」という言葉の意味が広く曖昧過ぎるため、もう少し定義をはっきりしてほしい。
	将来像にはぶれることのない力強いテーマが必要で、そこから様々な取組みやアイデアが湧き出してくるはず。
	何も目的がなくて来訪してくる人が増えているという結果もあるが、一方で欧米の観光客は事前に目的地を詳細に調査した上で、強い目的を持って来ている。
	上野の存在を明確にするために、持っている資源を活用し、山の魅力、まちの魅力、そして駅を中心とした三位一体の回遊性の強化により魅力を創出する必要がある。
	上野の周辺地区では外国人が非常に増えているが、非常にマナーが悪く、まちの将来が不安である。また近年ワンルームマンションが増えており、居住者の顔が見えにくい。
その他	このまちでどのような回遊性のニーズがあるのか、もう少し丁寧に分析していく必要がある。
	今あるものを全て壊してしまうとまちへの愛着が失われてしまうので、今あるものを前提として将来像を描くべき。

第4回策定委員会	
発言者	主なご意見
学識委員	国際会議やシンポジウムを開催できる規模のホールの規模については、今後その需要など詳細に検討していく必要がある。
	「取組みの方向性」について、短期・中期・長期のスケジュール感と合わせて整理し、具体的な事業についても可能なもの（短期）については記載すべき。
	統一的なロゴデザインやキャッチコピーなどを打ち出し、まちづくり全体の一体感を創出できないか。
区民委員	来街者など周辺からの声や、技術革新等も踏まえた長期的な視点を「上野への期待」に盛り込んでもらいたい。
	実際に行う項目と例示が併記されているなど、全体的な記載のバランスをもう一度見直してもらいたい。
	外からみた上野の負のイメージを払拭したい。また、(別冊(資料編)などで)「上野の歴史性」をもっと強く打ち出してもらいたい。
	将来像の実現に向けて全体としてどのようにまちづくりを進めていくのかを示す必要がある。
その他	このビジョンが各地域にどのような影響を与えるのか、しっかり共有してほしい。
	具体的な事業の話については、今後、部会や個別にて協議させていただきたい。
	マネジメント体制について、具体的にどういう人たちが組織して、そこで何を決めていくのかを示してもらいたい。
	価値を高めるために地区として必要な機能を、公園に入れるのがよいのか、まちに入れるのがよいのか、よく議論してもらいたい。
	本当に色々な要素があるまちと認識した。ビジョンに記載しないものも含めて幅広く議論していく方がよい。

第5回策定委員会	
発言者	主なご意見
学識委員	ビジョンの役割は、基盤整備などの詳細の検討をしていく中で、何か迷ったときにこれに戻って検討をするもの。ビジョンに記載することについて、合意ができていれば、それは実現に向けたステップの段階がひとつあがったと言える。
	イメージ写真について、誤ったメッセージを伝えないよう、適切に選定すべき。
	イメージ写真について、掲載された意図が少しでも伝わるよう、どこの写真か分かるような説明を追記してはどうか。
区民委員	基盤整備に関する内容については、少しでも早く実現できるよう、来年度以降の推進会議でも、議論できる体制を整えてほしい。
	駅の風格を大切に、上野の顔となるような駅改良のビジョンを示してほしい。
	地域のまちづくりに関連した情報は、随時地元へ説明してほしい。
その他	国際的なシンポジウムに使えるようなホールをつくることができれば、将来的な発展も可能になるという国際的な視点が弱まってしまった。
	駅については、地元の皆さんから期待されているということで、このビジョンに基づいてしっかり取り組みたい。上野は駅として価値のあるもの。今ある価値を重視して取り組んでいきたい。
	袴腰広場やアートクロスなど上野文化の杜新構想の取組みをもう少し詳しく記載してほしい。上野駅は、他に類をみない美術館のような駅であり、既存の美術品なども大事にしてもらいたい。

第6回策定委員会	
発言者	主なご意見
学識委員	ソフトは目に見える成果も出やすいので、地域組織レベルでの小さな動きも自由度を持って動きやすくするような仕組みや枠組みづくりなど、官民連携しながらさらに加速させてほしい。
	短期における幾つかの節目をターゲットに、連続的に加速させていくのが非常に大事なこと。やはり動いていないとまちが変わっていった感じが出ないから、柔軟にやれるところからやるという姿勢は持っておきたい。
	一つ一つできることを皆が積み重ねていながら、同じ方向に向かって動いていくということを、この機会に世界に発信をしなければいけない。
	同じレベルを張りながら、仲間を増やすように活動を大きくしていく取組みができたらいい。
区民委員	ビジョン公表後、間をあげることなく、多くの方にこの方向性を共有し、大変強いメッセージが発信できるオリパラなどで、いかにこの台東区、上野・浅草の魅力を戦略的に世界に発信できるか検討してもらいたい。
	ビジョン策定を受けて、地元のまちづくり協議会でも、新たなエリアマネジメント組織に向けて動いていかなければいけないと考えている。
その他	行政と民間を分けて、それぞれで議論を進めていくだけではなく、どう連動していくかという仕組みを考えていくべき。
	駅への期待が地域の方々を含めて非常に大きいということを感じており、今後、具体的な取組みを検討していく中で、しっかりと取り組んでいきたい。
	まちづくりと歩調を合わせて、よりお客様や地域の方々に使いやすいような駅になるように取り組んでいきたい。
	民間側のソフト・ハード両面のまちづくりと行政側のハード面の取組みがいかに呼応した形でよくなっていくかが大切。
	上野恩賜公園はまちの中の1パーツであり、まち全体のためになるような公園になってほしい。
	これからは、どうやって民間の資金もうまく取り入れながら、実際にまちを変えていくのかということを考えていかなければいけないフェーズに入っていく。
物流や駐車の問題を整理しながら、国や東京都も歩行者中心のまちづくりを一緒にやっていき、支援できるものがあればやっていきたい。	
上野恩賜公園は、長い歴史の中で時代とともに変わってきており、時間軸を振り分けながら、できるものから一つずつ進めていきたい。	
まちと杜をつなぐことを今後どういった形で進めていくかということを検討していきたい。	

上野地区まちづくり庁内検討会

日時	会議	議事
平成 29 年 8 月 7 日	第 1 回上野地区まちづくり庁内検討会	(1) 上野地区まちづくり基礎調査結果と現在の取り組み状況について (2) 上野地区まちづくりの方向性について (3) 検討体制及びスケジュールについて
平成 29 年 10 月 31 日	第 2 回上野地区まちづくり庁内検討会	(1) 第 1 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会について
平成 29 年 12 月 7 日	第 3 回上野地区まちづくり庁内検討会	(1) 第 1 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会における主な意見 (2) 第 1 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会基盤整備部会について
平成 30 年 6 月 21 日	第 4 回上野地区まちづくり庁内検討会	(1) 第 2 回上野地区まちづくりビジョン策定委員会について
平成 30 年 12 月 19 日	第 5 回上野地区まちづくり庁内検討会	(1) 上野地区まちづくりの進捗状況について (2) 第 3 回ビジョン策定委員会における検討内容について
令和元年 8 月 30 日	第 6 回上野地区まちづくり庁内検討会	(1) 上野地区まちづくりの進捗状況について (2) 第 4 回ビジョン策定委員会における検討内容について
令和元年 11 月 18 日	第 7 回上野地区まちづくり庁内検討会	(1) 上野地区まちづくりの進捗状況について (2) 上野地区まちづくりビジョン中間のまとめについて
令和 2 年 1 月 22 日	第 8 回上野地区まちづくり庁内検討会	(1) 上野地区まちづくりビジョン最終案について

7

検討体制

(1) 名簿

上野地区まちづくりビジョン策定委員会名簿

※敬称略

	氏名	役職名	備考
座長	岸井 隆幸	日本大学理工学部 特任教授	
副座長	高見 公雄	法政大学デザイン工学部 教授	
委員	清水 泰博	東京藝術大学副学長・美術学部 教授	平成 30 年 1 月 10 日から
	(元倉 眞琴)	東京藝術大学 名誉教授	平成 29 年 11 月 16 日まで
	加藤 孝明	東京大学生産技術研究所 教授 社会科学研究所特任 教授	
	五十嵐 泰正	筑波大学大学院 准教授	
	佐藤 一也	副都心上野まちづくり協議会 会長	
	桜井 聖剛	御徒町駅広場周辺地区まちづくり協議会 会長	
	梅澤 真光	御徒町駅東側区域まちづくり協議会 会長	
	麻生 勝重	竹町地区町会連合会 会長	平成 30 年 4 月 10 日から
	(大橋 良)		平成 30 年 2 月 12 日まで
	政木 喜三郎	東上野地区町会連合会 会長	
	土肥 一夫	上野地区町会連合会 会長	
	二木 忠男	上野観光連盟 会長	
	早津 司朗	上野商店街連合会 会長	
	小山 宏	東日本旅客鉄道株式会社総合企画本部投資計画部担当部長	
	山崎 淳	東日本旅客鉄道株式会社東京支社総務部企画部長	平成 30 年 6 月 22 日から
	(井料 青海)		平成 30 年 6 月 21 日まで
	田地 朗	東京地下鉄株式会社鉄道本部鉄道統括部長	平成 31 年 4 月 1 日から
	(小川 孝行)	東京地下鉄株式会社取締役鉄道本部鉄道統括部長	平成 31 年 3 月 31 日まで
	岡 匡一	京成電鉄株式会社経営統括部長	令和元年 6 月 27 日から
	(金子 庄吉)		令和元年 6 月 26 日まで
西野 仁	台東区技監	平成 30 年 4 月 1 日から	
田中 充	台東区企画財政部長	平成 31 年 4 月 1 日から	
(佐藤 徳久)		平成 31 年 3 月 31 日まで	
伴 宣久	台東区都市づくり部長		
武田 光一	台東区土木担当部長	平成 31 年 4 月 1 日から	
(岡田 和平)		平成 30 年 4 月 1 日から	
(高柳 正治)		平成 31 年 3 月 31 日まで	
			平成 30 年 3 月 31 日まで

上野地区まちづくりビジョン策定委員会基盤整備部会名簿

※敬称略

	氏名	役職名	備考
部会長	高見 公雄	法政大学デザイン工学部 教授	
部会員	清水 泰博	東京藝術大学副学長・美術学部 教授	平成 30 年 1 月 10 日から
	大貫 渉 (武田 幸彦)	東日本旅客鉄道株式会社総合企画本部投資計画部 計画調整グループ課長	令和元年 6 月 21 日から 令和元年 6 月 20 日まで
	塩ノ谷 浩司	東日本旅客鉄道株式会社 東京支社総務部企画室企画調整課長	
	木津 和久	東京地下鉄株式会社 鉄道本部鉄道統括部渉外・工事調整担当課長	
	黄地 幸宏 (鈴木 大介)	京成電鉄株式会社経営統括部経営企画担当課長	
	荒井 昭人 (山下 敦馬)	国土交通省関東地方整備局東京国道事務所計画課長	平成 31 年 4 月 1 日から 平成 31 年 3 月 31 日まで
	清水 充 (鈴木 直也)	東京都建設局道路管理部路政課長	
	根来 千秋	東京都建設局公園緑地部計画課長	
	三浦 貞夫	東京都建設局東部公園緑地事務所事業推進課長	
	伴 宣久	台東区都市づくり部長	
	武田 光一 (岡田 和平) (高柳 正治)	台東区土木担当部長	平成 31 年 4 月 1 日から 平成 30 年 4 月 1 日から 平成 31 年 3 月 31 日まで 平成 30 年 3 月 31 日まで

上野地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会名簿

※敬称略

	氏名	役職名	備考
部会長	加藤 孝明	東京大学生産技術研究所 教授 社会科学研究所 特任教授	
部会員	五十嵐 泰正	筑波大学大学院 准教授	
	佐藤 一也	副都心上野まちづくり協議会 会長	
	梅澤 高興	御徒町駅広場周辺地区まちづくり協議会 副会長	
	梅澤 真光	御徒町駅東側区域まちづくり協議会 会長	
	三浦 利典	上野南大門町町会 会長	
	政木 喜三郎	東上野地区町会連合会 会長	
	野村 孝三郎	仲徒三四町町会 会長	
	二木 忠男	上野観光連盟 会長	
	早津 司朗	上野商店街連合会 会長	
	星野 勲	アメ横商店街連合会 会長	
	伴 宣久	台東区都市づくり部長	
	武田 光一 (岡田 和平) (高柳 正治)	台東区土木担当部長	平成 31 年 4 月 1 日から 平成 30 年 4 月 1 日から 平成 31 年 3 月 31 日まで 平成 30 年 3 月 31 日まで

7

検討体制

上野地区まちづくり庁内検討会名簿

	氏名	役職名	備考
会長	西野 仁	技監	平成30年4月1日から
副会長	伴 宣久	都市づくり部長	平成30年3月31日まで会長職
副会長	武田 光一	土木担当部長	平成31年4月1日から
	(岡田 和平)		平成30年4月1日から 平成31年3月31日まで
	(高柳 正治)		平成30年3月31日まで
副会長	田中 充	企画財政部長	平成31年4月1日から
	(佐藤 徳久)		平成31年3月31日まで
委員	松本 浩一	危機管理室長	平成30年4月1日から
	(嶋田 邦彦)		平成30年3月31日まで
	岡田 和平	文化産業観光部長	平成31年4月1日から
	(河井 卓治)		平成31年3月31日まで
	梶 靖彦	産業振興担当部長	平成30年4月1日から
	渡部 行房	都市づくり部参事	平成31年4月1日から
	越智 浩史	企画課長	平成31年4月1日から
	(前田 幹生)		平成31年3月31日まで
	飯田 辰徳	危機・災害対策課長	平成31年4月1日から
	(川島 俊二)		平成31年3月31日まで
	三瓶 共洋	文化振興課長	平成30年4月1日から
	(内田 円)		平成30年3月31日まで
	平林 正明	観光課長	平成31年4月1日から
	(飯野 秀則)		平成31年3月31日まで
	上野 守代	産業振興課長	平成30年4月1日から
	(菅谷 健治)		平成30年3月31日まで
	前田 幹生	都市計画課長	平成31年4月1日から
	(原嶋 伸夫)		平成31年3月31日まで
	寺田 茂	計画調整課長	平成31年4月1日から
	浦里 健太郎	地域整備第一課長	平成31年4月1日から
		まちづくり推進課長	平成31年3月31日まで
	遠藤 成之	地域整備第三課長	平成31年4月1日から
	(越智 浩史)	地区整備課長	平成29年4月1日から
	(原島 悟)		平成31年3月31日まで 平成29年3月31日まで
	松崎 晴生	建築課長	平成30年4月1日から
	(松本 浩一)		平成30年3月31日まで
	石川 洋二	交通対策課長	
石川 洋二	道路管理課長	令和元年12月1日から	
(曲山 裕通)		平成31年4月1日から 令和元年11月30日まで	
(遠藤 成之)		平成31年3月31日まで	
齋藤 洋	土木課長		
植野 譲	都市づくり部副参事	平成31年3月31日まで	
大野 邦仁	都市づくり部副参事	平成31年3月31日まで	
西田 拓泰	都市づくり部副参事	平成31年4月1日から	
堀 次郎	都市づくり部副参事	平成31年4月1日から	

(2) 設置要綱

◆上野地区まちづくりビジョン策定委員会設置要綱◆

上野地区まちづくりビジョン策定委員会設置要綱

平成29年10月17日
29台都計第92号
平成30年4月1日
30台都計第6-3号
平成31年4月1日
31台都地一第9号

(目的)

第1条 上野地区におけるまちづくりの方向性を示す「上野地区まちづくりビジョン」(以下「まちづくりビジョン」という。)を策定するため、上野地区まちづくりビジョン策定委員会(以下「策定委員会」という。)を設置する。

(検討事項)

第2条 策定委員会は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) まちづくりビジョンの策定に関する事。
- (2) 都市基盤整備(道路整備、歩行者動線整備等をいう。以下同じ。)等に関する事。
- (3) まちづくり等に関する事。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、上野地区のまちづくりに関して必要な事項

(構成)

第3条 策定委員会は、別表1に掲げる者をもって構成する。

(座長及び副座長)

第4条 策定委員会に座長及び副座長を置く。

- 2 座長及び副座長は、別表1に規定する学識経験を有する者のうちから、委員の互選によってこれを定める。
- 3 座長は、策定委員会を代表し、会務を統括する。
- 4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときはその職務を代理する。

(招集等)

第5条 座長は、会議を招集し、これを主宰する。

- 2 座長は、必要に応じて策定委員会に委員以外の者の出席を求め、又は他の方法で意見を聴くことができる。

(専門部会)

第6条 第2条に規定する検討事項を専門的に検討するため、策定委員会の下に次の専門部会を設置する。

- (1) 基盤整備部会 都市基盤整備等に関する事項
- (2) まちづくり部会 まちづくり等に関する事項
- 2 各専門部会は、別表2及び別表3に掲げる者をもって構成する。
- 3 各専門部会に部会長を置き、学識経験を有する者の中から座長が指名する。
- 4 各部会長は、必要に応じて部会に部会員以外の者の出席を求め、又は他の方法で意見を聴くことができる。
- 5 部会長は、部会の検討結果を策定委員会へ報告する。

(会議及び会議録等の取扱い)

第7条 会議並びに会議録及び会議に係る資料(以下これらを「会議録等」という。)は、公開する。ただし、座長が特に必要があると認めたときは、会議録等を公開しないことができる。

(任期)

第8条 座長、副座長及び委員並び専門部会の部会長及び部会員の任期は、まちづくりビジョンの策定が終了する日までとする。

(事務局)

第9条 策定委員会の事務局は、都市づくり部地域整備第一課に置く。

(まちづくりビジョンの公表)

第10条 策定委員会がまちづくりビジョンを策定したときは、これを公表する。

(委任)

第11条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に必要な事項は、座長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成29年10月17日から施行する。

付 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

別表1（第3条関係）上野地区まちづくりビジョン策定委員会

座長	
副座長	学識経験を有する者
委員	
委員	副都心上野まちづくり協議会に属する者
委員	御徒町駅広場周辺地区まちづくり協議会に属する者
委員	御徒町駅東側区域まちづくり協議会に属する者
委員	竹町地区町会連合会に属する者
委員	東上野地区町会連合会に属する者
委員	上野地区町会連合会に属する者
委員	上野商店街連合会に属する者
委員	上野観光連盟に属する者
委員	東日本旅客鉄道株式会社に属する者
委員	東京地下鉄株式会社に属する者
委員	京成電鉄株式会社に属する者
委員	技監
委員	企画財政部長
委員	都市づくり部長
委員	都市づくり部土木担当部長

別表2（第6条関係）基盤整備部会

基盤整備部会長	学識経験を有する者
基盤整備部会員	
基盤整備部会員	東日本旅客鉄道株式会社に属する者
基盤整備部会員	東京地下鉄株式会社に属する者
基盤整備部会員	京成電鉄株式会社に属する者
基盤整備部会員	国土交通省関東地方整備局東京国道事務所に属する者
基盤整備部会員	東京都建設局に属する者
基盤整備部会員	都市づくり部長
基盤整備部会員	都市づくり部土木担当部長

別表3（第6条関係）まちづくり部会

まちづくり部会長	学識経験を有する者
まちづくり部会員	
まちづくり部会員	副都心上野まちづくり協議会に属する者
まちづくり部会員	御徒町駅広場周辺地区まちづくり協議会に属する者
まちづくり部会員	御徒町駅東側区域まちづくり協議会に属する者
まちづくり部会員	竹町地区町会連合会に属する者
まちづくり部会員	東上野地区町会連合会に属する者
まちづくり部会員	上野地区町会連合会に属する者
まちづくり部会員	上野商店街連合会に属する者
まちづくり部会員	上野観光連盟に属する者
まちづくり部会員	都市づくり部長
まちづくり部会員	都市づくり部土木担当部長

◆上野地区まちづくり庁内検討会設置要綱◆

上野地区まちづくり庁内検討会設置要綱

平成29年8月1日
29台都計第73号
平成30年4月1日
30台都計第6-4号
平成31年4月1日
31台都地一第10号

(設置)

第1条 上野地区におけるまちづくり及び都市基盤整備(道路整備、歩行者動線整備等をいう。以下同じ。)等の方向性について検討を行うため、上野地区まちづくり庁内検討会(以下「庁内検討会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 庁内検討会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 上野地区のまちづくり及び都市基盤整備の検討に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、上野地区まちづくりに関して必要な事項

(構成)

第3条 庁内検討会の構成は、別表のとおりとし、技監を会長とし、都市づくり部長及び土木担当部長を副会長とする。

(会長及び副会長)

第4条 会長は、庁内検討会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、副会長がその職務を代理する。

(招集等)

第5条 会長は、会議を招集する。

2 会長は、必要に応じて庁内検討会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務局)

第6条 庁内検討会の事務局は、都市づくり部地域整備第一課に置く。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、庁内検討会の運営に関し、必要な事項は会長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成29年8月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

別表 (第3条関係)

会 長	技 監	委 員	観光課長
副会長	都市づくり部長	委 員	産業振興課長
副会長	土木担当部長	委 員	都市計画課長
委 員	企画財政部長	委 員	計画調整課長
委 員	危機管理室長	委 員	地域整備第一課長
委 員	文化産業観光部長	委 員	地域整備第三課長
委 員	産業振興担当部長	委 員	建築課長
委 員	都市づくり部参事	委 員	交通対策課長
委 員	企画課長	委 員	道路管理課長
委 員	危機・災害対策課長	委 員	土木課長
委 員	文化振興課長	委 員	都市づくり部副参事
		委 員	都市づくり部副参事

【参考】掲載写真解説 ビジョン本編に掲載したイメージ写真の紹介コーナー

- ① TOKYO GREEN 2012 (P13「杜1」水辺を活かした芸術活動) ※ページは本編を示す 以下同じ



「第29回全国都市緑化フェア TOKYO～TOKYO GREEN 2012～」として、2012年9月29日～10月28日に東京で開催されたイベント。上野恩賜公園はそのメイン会場のひとつで、そのなかの「不忍池エリア」は、下町の文化をデザインコンセプトとした、花と緑でおりなす「下町の庭」がテーマで、写真は人間と自然をテーマにデザイン専門学校の生徒が制作した作品展示。

- ② ブライアントパーク (P13「杜3」芝生広場イメージ)



ニューヨーク・マンハッタンにある公園で、ミッドタウンのオフィスビルで囲まれた緑あふれる空間で、周辺の企業に勤める人や観光客の憩いの場。写真はこの公園の中心にある芝生広場で、平常時は周辺の働く人や訪れる人の憩いの場だが、定期的で開催されるイベント時には観客席にもなる。

- ③ シェアグリーン南青山 (P13「杜3」屋根付き休憩所イメージ)



倉庫跡地をリノベーションし2018年10月にオープン。新しい“PARK LIFE STYLE”を提案し、緑豊かな広場を中心にカフェ、ショップ、オフィスが共存。写真は芝生広場の脇にある緑あふれる屋根付きのテラス席。

- ④ ランブラス通り (P17「杜まち1」公園とまち・駅をつなぐわかりやすい歩行者ネットワーク)



スペイン・バルセロナを代表するメインストリート。歩道・車道・遊歩道で構成され、沿道にはバルなどの飲食店やショップ、劇場、広場といった賑わいの機能が立ち並ぶとともに、中央の遊歩道では大道芸や、屋台、オープンカフェなどが行われ、賑わいの連続性が回遊性を創出している。

- ⑤ アントワープ中央駅 (P17「杜まち1」アクセス視認性を確保した縦動線)



ベルギー第二の都市・アントワープにある駅で、世界で最も美しい駅のひとつとして有名な観光スポット。駅舎は1905年に完成した壮麗なバロック様式だが、プラットフォームの屋根は、鉄とガラスを多用した近代的なつくりで、伝統を感じさせる重厚感のある部分と機能的で近代的な部分とが見事に融合している。近郊線や都市環状鉄道、高速列車などが地上階と地下1・2階に分かれたホームを行き来する珍しい構造で、写真は大空間の中で各層をつなぐ縦動線。

- ⑥ うめだコンコース広場 (P17「杜まち2」国際都市の顔に相応しい風格ある歩行者広場空間)



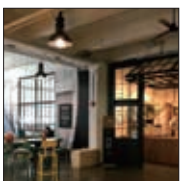
阪急うめだ本店に面するコンコース広場。「クラシック」「モダン」「エレガント」が融合する世界観をコンセプトに、西日本最大級の鉄道ターミナル駅に相応しい象徴的な歩行者広場空間としてデザインされ、歩行者動線の利便性と回遊性の向上、賑わいの創出を図っている。

- ⑦ セントパンクラス駅 (P17「杜まち2」駅を中心とした交通機能の集約による交通結節点)



1868年に開業したイギリス・ロンドンの主要ターミナル駅のひとつ。駅舎は、ゴシック様式の荘厳なつくりで、「世界屈指のエレガントな駅」と呼ばれる。2000年代の乗り入れ路線の増加に伴う駅舎増築の際には、旧駅舎を歴史的建築物として扱い、増築部分は古い部分と異なることを意識したコンクリート、ガラス、鉄、アルミニウムといったモダンな素材で構成されている。駅内部にはカフェ、レストラン、ショップなどが並ぶとともに、音楽、彫刻、建築など多くのアートがあふれている。

- ⑧ インダストリーシティ (P18「杜まち3」文化・芸術の創造・表現・交流の場)



ニューヨークのブルックリンのサンセットパークにある施設。8つのビルにまたがりながら、クリエイター中心のオフィススペースでありながら、フードコートやショップもある注目スポット。19世紀末に開発された埠頭兼巨大倉庫兼巨大工場群跡地を再開発しながら、古い建物も上手に利用し、おしゃれな情報発信拠点に変貌。アーティスト、フォトグラファー、個人起業家などが集まるオフィスエリア。

【参考】掲載写真解説

⑨八戸まちなか広場 マチニワ（P18「杜まち3」展示・イベントスペース）



青森・八戸市中心街にオープンした市民の活動・交流の場。日常では、まちなかの「庭」のような役割を担いながら、地域を代表する祭りやイベントと連動した利用や、災害時の一時滞在施設としても活用。

⑩ノーガホテル上野（P18「杜まち3」地域産業と連携したイベントを実施する宿泊施設）



「地域との深いつながりから生まれる素敵な経験」をコンセプトとして、2018年11月上野に開業したホテル。ホテル内で地域の文化を感じられるよう、地域の職人やデザイナーと連携したオリジナルのプロダクトやアートを各所に配置するとともに、地域のショップや工場の紹介や、地域産業と連携したイベントやワークショップなども定期的に開催。

⑪TOKYO 数寄フェス 2017（P21「国際競争力を強化する文化・芸術の創造発信拠点の形成」）



2017年11月に上野恩賜公園で開催された日本文化を世界に発信するアートイベント。世界最高水準の文化芸術都市の未来を創出するため、アートのチカラで上野がつくり出した価値を再認識し、公共空間である公園を進化させ、世界とつながり、多様性から生まれる新しい価値を創造しつづけることを目的として開催。写真は、竹の台噴水池に単管パイプと木材で組み上げた巨大な楼閣で、かつてこの地に存在した寛永寺の山門「文殊楼」をモチーフとした作品。

⑫タイムズスクエア（P21「歩行者優先のわかりやすい都市空間の創出」）



アメリカ・ニューヨーク市にある繁華街・交差点。建物外壁に設置された世界中の企業広告や巨大ディスプレイなどの景観や、世界中から観光客が集まる光景から、「世界の交差点」と呼ばれる。近年ニューヨーク市は、このタイムズスクエアを含むブロードウェイにおいて、道路から自動車を排除し歩行者のために取り戻す事業を継続的に実施しており、その結果タイムズスクエアは大きな歩行者専用広場空間となり公共空間の再編が実現した。

⑬キングス クロス駅（P21「国際都市の顔に相応しい駅前空間の創出」）



1852年に開業したロンドン中心部の主要鉄道ターミナル駅。ロンドンと郊外を結ぶ鉄道の始発駅であり、隣接するセントパンクラス駅とともに地下鉄や国際鉄道などもつなぐ交通の要衝である。近年実施された再開発では、旧駅舎をそのまま活用・復元しながら新たな駅前広場空間を創出した。

⑭ソニーセンター（P22「上野を訪れ、上野で住み、働くための都市機能の強化」）



ドイツ・ベルリン中心部のポツダム広場にある住宅を含む複合商業施設。ソニーのヨーロッパにおける拠点として、オフィス・商業・シネマコンプレックスなどが入居するとともに、ドイツ現代建築の最高峰としても注目を浴びる、現代ベルリンの象徴のひとつである。

⑮田町スマートエネルギーセンター（P22「平時の営みの中で実現するエリア防災力の強化」）



田町駅東口北地区における「低炭素で災害に強いまちづくり」の実現を目的とした、官民連携の大規模まちづくりにおけるスマートエネルギーネットワークの導入事例。ガスコージェネレーションシステムを中心としたスマートエネルギーの導入や再生可能エネルギーの積極的利用などによるエリア全体での低炭素化や、センター間の連携による災害発生時のエネルギーセキュリティの向上を実現。

台東区民憲章

あしたへ

江戸の昔、「花の雲 鐘は上野か 浅草か」と詠まれたわたくしたちのまち台東区には、磨き抜かれた匠の技や気さくで人情あふれる暮らしが、今もあちらこちらに息づいています。

わたくしたちは、先人が築いてきた文化や環境を大切にしてい、伸びゆく住みよいまちを目指し、この憲章を定めます。

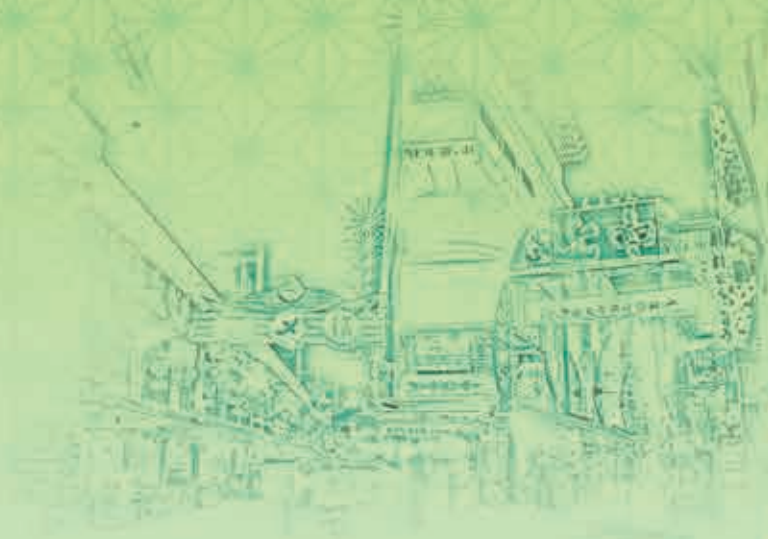
たからものを うけつぎ こころゆたかな まちにします

おもてなしの えがおで にぎやかな まちにします

おもいやり ささえあい あたたかな まちにします

みどりを いつくしみ さわやかな まちにします

いきがいを はぐくんで すこやかな まちにします



上野地区まちづくりビジョン～資料編～

令和2年3月発行
(平成31年度登録 第93号)

台東区都市づくり部 地域整備第一課

〒110-8615 東京都台東区東上野4丁目5番6号
電話 03(5246)1368 (直通)